

# 国際スケート連盟 ( I S U )

## スピードスケート競技特別規程と技術規則 2018年版

### 目 次

#### I. スピードスケート競技特別規程

##### A. 距 離

第200条	距離とチーム競技	…	9
第201条	I S U選手権大会の距離とチーム競技	…	9
	1. 世界選手権大会		
	2. ヨーロッパ選手権大会		
	3. 四大陸選手権大会		
	4. 世界ジュニア選手権大会		

第202条	オリンピック冬季競技大会の距離とレース	…	12
-------	---------------------	---	----

##### B. トラックと会場

第203条	標準トラック	…	13
第204条	他のスピードスケート・トラック	…	13
第205条	I S U選手権大会とI S Uワールドカップ競技会のトラック	…	13
第206条	オリンピック冬季競技大会のトラック	…	13

##### C. 競技会の組織

第207条	エントリー料	…	14
第208条	I S U選手権大会とI S Uイベントの申込み	…	14
	1. 一般条件		
	2. エントリー枠と出場資格制度		
	2.1 世界選手権大会 - 距離別/個人レース及びチームレース	…	15
	2.2 世界選手権大会 - オールラウンド複合	…	17
	2.3 世界選手権大会 - スプリント複合		
	2.4 ヨーロッパ選手権大会		
	2.5 四大陸選手権大会		
	2.6 世界ジュニア選手権大会		
第209条	オリンピック冬季競技大会の申込み	…	20

1. エントリー枠
2. 出場資格制度

##### D. 競技役員とその義務

第210条	必要な競技役員	…	27
第211条	競技役員の任命	…	27
第212条	I S U選手権大会とオリンピック冬季競技大会のレフェリーとスターターの指名推薦	…	27
第213条	国際競技会と国内選手権大会のレフェリーとスターターの指名推薦	…	28
第214条	I S U選手権大会のレフェリー、スターター及び他の競技役員の任命	…	28
第215条	オリンピック冬季競技大会の競技役員の任命	…	29
第216条	レフェリーの義務と権限	…	29
第217条	スターターの義務と権限	…	31
第218条	トラックジャッジの義務	…	31
第219条	ラップスコアラーの義務	…	31
第220条	フィニッシュラインジャッジの義務	…	31

##### E. 世界記録

第221条	1. 世界記録イベント	…	32
	2. 遵守すべき条件		
	3. 提出及び発行すべき文書		

##### F. ワールドカップ

第222条	スピードスケート・ワールドカップ	…	34
-------	------------------	---	----

##### G. 競技者の用具

第223条	1. レーシングスーツ、安全装備、チームユニフォーム	…	35
	2. スケート		
	3. 装備規定違反		
第224条、225条	(予備)		

## II. スピードスケート競技技術規則

### A. トラック

	標準スピードスケート・トラックの図面	…	38
	標準スピードスケート・トラックの例	…	39
第226条	競技トラックの境界表示	…	40
第227条	トラックのレイアウト	…	40
	1. 測定		
	2. スタートラインとフィニッシュライン		
	3. コーチのエリア		
第228条	スケーターの安全を防護する措置	…	41
	1. 事故回避の措置		
	2. 防護措置一全ての競技会のための最低要件		
	3. ISUイベント及びオリンピックでの防護措置		
第229条	ISU競技会及び冬季オリンピック競技会における製氷手順	…	43
	ISUアイスコミッション		
	アイス・テクニカルエキスパートからの情報		

### B. 競技会の組織

第230条	ISU選手権大会のアナウンスメントと運営	…	45
第231条	ISU選手権大会中の通達（一般規程第132条）	…	45
第232条	アナウンスメントの期日と内容、補足事項（一般規程第110-112条）	…	45
第233条	アナウンスメントの遅延（一般規程第113条）	…	45
第234条	競技会期日の延期、アナウンスメントの取消し（一般規程第114条）	…	45
第235条	エントリー、ニックネーム、申込み遅延（一般規程第115条）	…	45
第236条	（予備）	…	45
第237条	競技会の成立（一般規程第118条）	…	45
第238条	ISU選手権大会での費用、スケーターと役員への費用の補償（一般規程第137条）	…	45

### C. 抽選手順

第239条	1. アナウンスメントと抽選に関する公開会議	…	46
	2. ISU選手権大会と他のISUイベントの抽選		
第240条	世界選手権大会の抽選	…	47
	1. 世界選手権大会 - オールラウンド複合の最初の抽選		
	2. 世界選手権大会 - オールラウンド複合のその後の抽選		
	3. 世界選手権大会 - オールラウンド複合の第4距離への出場資格		
	4. 世界選手権大会 - スプリント複合の抽選		
	5. 世界選手権大会 - 距離別/個人レース及びチームレースの抽選		
第241条	オリンピック冬季競技大会の抽選	…	49
第242条	ヨーロッパ選手権大会及び四大陸選手権大会の抽選	…	52
第243条	世界ジュニア選手権大会の抽選	…	52
第244条	国際競技会の抽選	…	53
	1つの賞を授与する競技会の組の抽選と組の編成		
第245条	抽選後のスタートからの棄権、補欠のエントリー	…	54
第246条	スタート順の調整	…	54

### D. 計 時

第247条	自動計時と手動計時	…	55
第248条	時 計	…	55
第249条	公式タイム	…	55
第250条	手動計時手順	…	55
第251条	自動計時手順	…	56
第252条	スプリットタイムと各週のラップタイム	…	58

### E. 競技規則

第253条	1. 逆時計回りの滑走	…	59
	2. 別れたレースレーンにおける滑走		
	3. レーンの交換		
	4. 特別規則をもつ競技と距離		
第254条	スタートの呼び出し	…	61
第255条	1. スタート装置	…	61
	2. スタート手順		
	3. 不正スタート		
第256条	1. 指定された競技レーン内の維持	…	63
	2. カーブにおける内側ラインの横断		
	3. 指定された競技レーンのラインの横断		

	4. 例外的な状況	
第257条	1. 衝突の場合の責任	… 64
	2. 追越し時の責任	
	3. 失格	
第258条	追越しによる競技者間の距離	… 64
第259条	ペース作り	… 65
第260条	フィニッシュライン	… 65
第261条	チーム競技のレース規則	… 65
	1. チームパシュートレース	
	2. リレーレース	
	3. チームスプリントレース	
	4. チーム競技における失格と再レース	
第262条	再レースの容認	… 67
	必要な休息时间	… 68
	再レースのスタートレーン	
第263条	ドーピング（一般規程第139条）	… 68
<b>F. 競技の結果</b>		
第264条	結果の発表	… 69
114		
第265条	レースの結果	… 69
	1. 距離別レースの結果	
	2. 複数距離の競技会の結果	
	3. 得点の計算	
	4. 複数距離の競技会の最終順位	
	5. チームパシュートレースの結果	
	6. マススタートレースの結果	
	7. チームスプリントレースの結果	
第266条	全距離への参加	… 72
第267条	タイトル（一般規程第133条）	… 72
第268条	優勝者	… 72
第269条	メダル（一般規程第134条）	… 73
第270条	賞（一般規程第120条）	… 73
第271条	メダルの授与（一般規程第134条）	… 73
第272条	選手権大会の結果（一般規程第135条）	… 73
第273条	公式プロトコル	… 73

## G. 抗議と失格

第274条	抗議（一般規程第123条）	… 74
第275条	失格	… 74
第276条	上訴（一般規程第124条）	… 74
第277条	競技者等の除名（一般規程第125条）	… 74

## H. カルテットスタート

第278条	1. 競技フォーマット	… 75
	2. スタート手順とカルテットの構成	

## I. 競技者の技術的競技機器

第279条	1. 通信機器	… 76
	2. 音楽機器	
	3. 計時機器	
	4. 腕章又はその他の識別	
	5. 機器に関する規則の違反	

# I. スピードスケート競技特別規程

## 第201条 【ISU選手権大会の距離別及びチーム競技】

### A. 距離

#### 第200条 【距離とチーム競技】

1. 国際競技会は、以下の競技を含むことができる：

距離：100m、500m、1000m、1500m、3000m、5000m、10000m

レース： マススタート

チームパシュート

チームスプリント

オールラウンド又はスプリントの複数距離の複合で、単一の賞が授与される競技

500+1000+500+1000m

500+1500+1000+3000m

500+1500+1000+5000m

500+3000+1500+5000m

500+5000+1500+10000m

2. 1項に規定された競技に加えて、その他の短距離や長距離、又はその他の組合せのレースを開催することもできる。チーム競技については、リレーレース、男女混成リレーレースなどを開催することができる（規則第261条も参照）。そのようなレースは通常のトラックで開催されなくてもよい（規則第204条も参照）。組織委員会は、該当する規程を告知しなければならず、ISUによって発行または承認された関連規程またはガイドラインを参照するものとする。

3. 以下の指示が遵守されていれば、（ISU選手権大会を除く）国際競技会において、新しい方法を試行してもよい：

- 申請は少なくとも3ヶ月前にはスピードスケート技術委員会に提出されなければならない。委員会の承認が得られなければならない。
- 競技会のアナウンスメントには、試行しようとする方式に関してインフォメーションが記されなければならない。
- 競技会後遅くとも2週間以内に主管加盟メンバーは新たな方式に関する報告書をスピードスケート技術委員会に提出しなければならない。

4. 国際競技会での新規方式

特別規程と技術規則に関する技術的性質の修正や新たな方法/システムについては、規則104条11.b)項が適用される。

#### 1. 【世界選手権大会】

世界選手権大会は、毎年開催され、競技は以下の通りである：

- 1.1. 距離別及びチームレース（2019/20シーズンまでは、世界距離別選手権大会の名で開催される）：
  - 女子距離別/個人レース：500m、1000m、1500m、3000m、5000m、マススタート
  - 男子距離別/個人レース：500m、1000m、1500m、5000m、10000m、マススタート
  - 女子チームレース
  - 男子チームレース
- 1.2. オールラウンド及びスプリントの複合競技（2019/20シーズンまでは、世界オールラウンド、世界スプリント選手権大会の名で開催される）：
  - 女子オールラウンド複合による競技：
    - ・500mと3000mを同日に滑走、1500mと5000mを翌日に滑走；
  - 男子オールラウンド複合による競技：
    - ・500mと5000mを同日に滑走、1500mと10000mを翌日に滑走；
  - 女子、男子スプリント複合による競技：
    - ・性別毎に、500mと1000mを連続する2日間にわたって2回滑走；
    - ・各日、500mは1000mの前に滑走；
- 1.3. 2020/21シーズンについて、選手権大会の方式は、競技会の初日から遅くとも2年前までに、ISU理事会によって決定されるものとする。各日のレースや競技の順序は、主催者及び、ISUスピードスケート技術委員会との協議のもと、ISUによって決定される。

#### 2. 【ヨーロッパ選手権大会】

ヨーロッパ選手権大会は、毎年3日間に渡って2種類のプログラムを交互に開催する。

2.1 オリンピックシーズンの前後のシーズンは、ヨーロッパ選手権大会は、オールラウンドとスプリントの複合競技で開催される。

a) 女子オールラウンド複合競技：

・500mと3000mを同日に滑走、1500mと5000mを翌日に滑走；

b) 男子オールラウンド複合競技：

・500mと5000mを同日に滑走、1500mと10000mを翌日に滑走；

c) 女子、男子スプリント複合競技：

・性別毎に、500mと1000mを連続する2日間にわたって2回滑走；

・各日、500mは1000mの前に滑走；

2.2 その他のシーズンにおいては、ヨーロッパ選手権大会は距離別とチームレースの競技によって開催される。競技は以下の通り：

- a) 女子距離別/個人レース：500m、1000m、1500m、3000m、マススタート
- b) 男子距離別/個人レース：500m、1000m、1500m、5000m、マススタート
- c) 女子チームレース
- d) 男子チームレース

2.3 各日のレースや競技の順序は、主催者及び、ISUスピードスケート技術委員会との協議のもと、ISUによって決定される。

### 3. 【四大陸選手権大会】

3.1 2019/20 シーズンより、四大陸選手権が毎年開催される。

3.2 選手権大会の方式は、ISU理事会によって決定される。2019/20 シーズンについては、大会初日の遅くとも1年前までに、2020/21 シーズンについては、大会初日の遅くとも2年前までに決定されるものとする。

各日のレースや競技の順序は、主催者及び、ISUスピードスケート技術委員会との協議のもと、ISUによって決定される。

### 4. 【世界ジュニア選手権大会】

4.1 世界ジュニア選手権大会は、毎年開催される。競技は以下の通り：

- a) 女子距離別/個人レース：500m、1000m、1500m、3000m、マススタート
- b) 男子距離別/個人レース：500m、1000m、1500m、5000m、マススタート
- c) 女子チームレース
- d) 男子チームレース
- e) 女子オールラウンド複合：
  - ・ 500m+1500m+1000m+3000m；
- f) 男子オールラウンド複合：
  - ・ 500m+1500m+1000m+5000m；

4.2 各日のレースや競技の順序は、主催者及び、ISUスピードスケート技術委員会との協議のもと、ISUによって決定される。

- c) 女子チームレース：6周のチームパシュートレース
- d) 男子チームレース：8周のチームパシュートレース

2. オリンピック冬季競技大会スピードスケート競技のプログラムは、当該ISUメンバーによって作成されるものとする。そのプログラムは、IOC、オリンピック冬季競技大会組織委員会と協議の上、ISU理事会によって承認されなければならない。

## 第202条 【オリンピック冬季競技大会の距離とレース】

1. オリンピック冬季競技大会の競技：

- a) 女子距離別競技：500m、1000m、1500m、3000m、5000m、16周のマススタートレース
- b) 男子：500m、1000m、1500m、5000m及び10000m、16周のマススタートレース

## C. 競技会の組織

### 第207条 【エントリー料】

ISU選手権大会に関するエントリー料は不要である。

### 第208条 【ISU選手権大会とISUイベントのエントリー】

#### 1. 【一般条件】

##### 1.1 エントリー

ISU選手権大会とISUイベントのエントリーは、それぞれのISUメンバーを通してのみ行うことができる（例外については、規則第109条5項を参照）。

##### 1.1.1 予備エントリー

コーチ、その他のチームスタッフの人数、選手及び補欠の人数、選手及びチームリーダーの暫定の氏名を記載した予備エントリーを、大会初日(女子、男子に関わらず大会初日)の18日前までに提出しなければならない。ISUメンバーは、予備エントリーに当該大会に派遣する予定のコーチやその他のチームスタッフの人数、選手及び補欠の人数と暫定の氏名を記載しなければならない。ISUが、エントリー枠又は有資格スケーターのリザーブリストを発行した大会については、当該ISUメンバーは、迅速に(最終エントリー締め切りの充分前に)エントリー枠を完全に使用するのか、棄権が発生した場合にリザーブのポジションの選手が、参加する用意があるのかを、ISU事務局に連絡しなければならない。

##### 1.1.2 最終エントリー

ISUメンバーが、選手権大会のアクレディテーションカードの発行を求める選手及び補欠の氏名、チームリーダー、コーチ、その他のチームオフィシャルの氏名を最終エントリーに記載する。チームオフィシャル用のアクレディテーションカードの数は、ISUが発行するガイドラインに従って制限される。最終エントリーは、規則第115条6a)項に従い、20:00(8pm)(大会会場の現地時間)までに組織委員会に伝えなければならない。

##### 1.1.3 追加エントリー

追加エントリーについては、一般規定第115条6項が適用される。

##### 1.2 出場資格タイム

全てのISUスピードスケート選手権大会及び一部のその他のISU競技会のエントリーには、最低限の出場資格タイムが求められる。各大会で求められる出場資格タイム、資格該当期間、タイムを達成しなければならない競技会のカテゴリー及びその他の条件は、ISUスピードスケート技術委員会によって決定され、ISUコミュニケーションで通知される。ISUメンバーには、出場資格タイムが必要となるISU競技会にエントリーする各選手が達成したベストの出場資格

## B. トラックと会場

### 第203条 【標準トラック】

1. 標準スピードスケート・トラックは、長さ最大400m、最小333 1/3mのダブルレーンの競技トラックをもち、それぞれ180度の2つのカーブをもつ、屋外、屋内又は室内のアイスリンクであり、その内側カーブの半径は25m以上26m以内に測定するものとする。
2. 交差エリアは、カーブの出口からストレート全体の長さとする。
3. 内側競技レーンの幅は4mとする。外側競技レーンの幅は少なくとも4mでなければならない。

### 第204条 【他のスピードスケート・トラック】

標準トラックの形式又は距離を遵守しないスピードスケート・トラックは、長さ最短200mのダブルレーンで、内側半径最小15m、交差エリアの長さ40m以上、競技レーン幅2m以上の競技トラックとして準備されるものとする。一般競技規則（規則第200条2項と3項参照）に従わない競技会に関しては、トラックは別個の競技レーンなしで、例えば、湖、河川上に準備することができる。

### 第205条 【ISU選手権大会とISUワールドカップ競技会のトラック】

ISU選手権大会とISUワールドカップ競技会は、400m標準スピードスケート・トラックで滑走しなければならない。トラックは、競技レーンの内側に幅最小4mのウォームアップレーンをもつものとする。

### 第206条 【オリンピック冬季競技大会のトラックと会場】

オリンピック冬季競技大会のスピードスケート競技は、人工冷凍氷によるISU400m標準スピードスケート・トラックで実施されなければならない。トラックはISU規程にしたがって設計されなければならないし、競技レーンの内側に幅最小4mのウォームアップレーンをもたなければならない。アイスリンクは風と天候から保護されている暖房付きの建物の中に、囲まれているなければならない。トラックの内側区域(中地)は氷の表面を横切ることなく入ることができなければならない。競技者、競技役員、ゲスト、TV及び他のメディアのための適切な施設とともに、十分な観客席が準備されていなければならない。

タイムの証明書類を提出する責任がある。十分な証明書類が無い場合、エントリーは受け入れられない。

## 2. 【エントリー枠と出場資格制度】

### 2.1 世界選手権大会－距離別/個人レース及びチームレース(2019/20 シーズンまでは、世界距離別選手権大会と呼ぶ)

#### 2.1.1 エントリー枠

世界選手権大会のエントリー枠は、シーズン中の所定のスピードスケート・ワールドカップ競技会で記録された結果に基づき作成された競技ごとの特別出場資格ランキングリスト(SQRL)に従い、ISUメンバーに割り当てられる。SQRLの対象となる実際のワールドカップ競技会は、年次のISUコミュニケーションで通知される。このコミュニケーションでは、各競技にエントリーする選手に求められる出場資格タイムも通知される。

ISUメンバーの最大エントリー枠は、個人競技でそれぞれ3名である。ただし女子5000m、男子10000m、女子マススタート、男子マススタート競技の最大エントリー枠は2名となる。チームレースでは、SQRLに従い出場資格を有するISUメンバーに対し1枠が割り当てられる。

各競技の選手の総数は、次のように限定される：

女子500mと男子500m：	24名
女子1000mと男子1000m：	24名
女子1500mと男子1500m：	24名
女子3000mと男子5000m：	20名
女子5000mと男子10000m：	12名
女子、男子マススタート：	24名
女子、男子チームパシュート：	8チーム
<u>女子、男子チームスプリント：</u>	<u>8チーム</u>

#### 2.1.2 出場資格制度

a) 各競技におけるSQRLは、2種類のランキングの組合せとなる：

- ・所定のワールドカップ競技会で獲得したワールドカップポイントに基づいたランキング(“SQRLポイントランキング”)。女子3000m、5000m、男子5000m、10000mにおいては、各距離のSQRLポイントランキングは、両距離のワールドカップポイントを共にカウントしたものにに基づく。
- ・所定のワールドカップ競技会において実際の距離競技で選手が達成したベストタイムに基づくランキング(“SQRL~~SQRL~~タイムランキング”)。

二つのランキングリストのいずれかにおいて同点の場合は、もう一方のリストで上位の選手が、SQRLで上位に位置づけられる。しかし可能な限り、SQRLポイントランキングの同点は、

まずISUワールドカップ・ランキング規則で裁定するものとする；

各競技において、上位SQRLポジションは、SQRLポイントランキングから、以下のよう  
に一定数のスケーター(各ISUメンバーの選手は、当該競技の最大エントリー枠以内)または  
チームから構成し、SQRLの残る部分は、SQRLタイムランキングに基づく：

女子	男子	SQRLポイント ランキング	SQRLタイム ランキング
500m, 1000m, 1500m	500m, 1000m, 1500m	14	<u>10</u>
3000m	5000m	12	<u>8</u>
5000m	10000m	6	<u>6</u>
マススタート	マススタート	24	<u>-</u>
チームパシュート	チームパシュート	6	<u>2</u>
チームスプリント	チームスプリント	6	<u>2</u>

ある競技の枠の総数を超えるSQRLランキングの順位は“SQRLリザーブポジション”とみなし、最大6までに限られる。

b) ISUメンバーに対するエントリー枠の配分。

各競技のISUメンバーに対するエントリー枠の配分は、SQRLの対象となる所定のスピードスケート・ワールドカップの最後の競技会后、ISUによって通知される。エントリー枠は、SQRLに従って配分されるが、例外として、大会を主催するISUメンバーの最高位スケーターがSQRL予備ポジションの上位6名にしか入っていない場合には、競技ごとに1名のエントリー枠が配分される。チームレースの場合は、大会を主催するISUメンバーは、そのチームがSQRL予備ポジションの上位3位にしか入っていない場合には、1チームのエントリー枠が配分される；

c) エントリー枠の再配分

一つ又は複数のISUメンバーが、配分されたエントリー枠に従って選手のエントリーをしない場合、これらのエントリー枠は、SQRLランキングに従い他のISUメンバーに再配分される。しかし、当該競技でエントリー枠を配分されていないISUメンバーが優先されるものとする。再配分は、個人競技においてはSQRL予備ポジション6名、チーム競技は、SQRL予備ポジション3位までに制限される。配分されたエントリー枠を利用しないISUメンバーは、早急にISU事務局に連絡することが義務付けられる。

d) 配分されたエントリー枠の利用(各競技のエントリー)：

エントリー枠の配分後、各ISUメンバーは、その裁量の下、競技ごとに最大1名の補欠を含む、選手のエントリーを行う。しかし、エントリーした全ての競技者は、競技ごとにISUが設定した出場資格タイムを達成していなければならない(上記1.2項を参照)。

### 2.2【世界選手権大会 - オールラウンド複合】(2019/20 シーズンまでは、世界オールラウンド選手権大会と呼ぶ)：

#### 2.2.1 エントリー枠

世界選手権大会の競技者数は、女子24名、男子24名である。各ISUメンバーの最大競技者数

は性別ごとに3名である。I SUメンバーは、性別毎に最大1名の補欠をエントリーできる。  
世界オールラウンド選手権大会へのI SUメンバーのエントリー枠は、先の選手権大会や、同一シーズンの資格取得I SU競技会であるワールドカップ競技会の結果を考慮し決定される。エントリー枠の配分は以下に行われる：

- ・I SUメンバーは、先の選手権大会における上位12位内のスケーター数に従い、あらかじめエントリー枠を配分される(最大エントリー枠2)。競技会を主催するI SUメンバーは、先の選手権大会において上位12位内にスケーターがいない場合、エントリー枠1が、あらかじめ配分される；
- ・残るエントリー枠は、SQR Lに基づき、I SUメンバーに配分される。

### 2.2.2 出場資格制度

SQR Lは、出場資格取得競技会に指定されたワールドカップ競技会における、1500m、3000m(女子)、1500m、5000m(男子)の両競技の総合結果(第265条3項に従った総合ポイント)をもとに作成される。先の選手権大会の結果に基づき、あらかじめエントリー枠が配分されたI SUメンバーにおいては、このあらかじめ配分されたエントリー枠に相当する数の当該メンバーのSQR L上位スケーターは、以降の配分で考慮しないものとする。

ある競技の枠の総数を超えるSQR Lランキングの順位は“SQR Lリザーブポジション”とみなし、最大6までに限られる。

このリザーブリストは、I SUメンバーが獲得した全てのエントリー枠を使用しない場合、エントリー枠の再配分をするために適用される。再配分の過程では、エントリー枠を配分されていないI SUメンバーが優先される。

世界選手権大会の配分されたエントリー枠内で、I SUメンバーは要求された出場資格タイムに到達しているスケーターの中から選手及び最大1名の補欠をエントリーすることができる(上記2.1.2a)項参照)。

特定の出場資格取得I SU競技会とSQR Lに関する詳細規定は、年次I SUコミュニケーションで発表される。

## 2.3 世界選手権大会 - スプリント複合 (2019/20 シーズンまでは、世界スプリント選手権大会と呼ぶ)：

### 2.3.1 エントリー枠

世界選手権大会の競技者数は、女子28名、男子28名である。各I SUメンバーの最大競技者数は性別ごとに3名である。I SUメンバーは、性別毎に最大1名の補欠をエントリーできる。  
世界オールラウンド選手権大会へのI SUメンバーのエントリー枠は、先の選手権大会や、同一シーズンの資格取得I SU競技会であるワールドカップ競技会の結果を考慮し決定される。エントリー枠の配分は以下に行われる：

- ・I SUメンバーは、先の選手権大会における上位16位内のスケーター数に従い、あらかじめエントリー枠を配分される(最大エントリー枠2)。競技会を主催するI SUメンバーは、先の選手権大会において上位16位内にスケーターがいない場合、エントリー枠1が、あらかじめ配分される；

- ・残るエントリー枠は、SQR Lに基づき、I SUメンバーに配分される。

### 2.3.2 出場資格制度

SQR Lは、出場資格取得競技会に指定されたワールドカップ競技会における、500m、1000m(女子、男子)の両競技の総合結果(第265条3項に従った総合ポイント)をもとに作成される。先の選手権大会の結果に基づき、あらかじめエントリー枠が配分されたI SUメンバーにおいては、このあらかじめ配分されたエントリー枠に相当する数の当該メンバーのSQR L上位スケーターは、以降の配分で考慮しないものとする。

ある競技の枠の総数を超えるSQR Lランキングの順位は“SQR Lリザーブポジション”とみなし、最大6までに限られる。

このリザーブリストは、I SUメンバーが獲得した全てのエントリー枠を使用しない場合、エントリー枠の再配分をするために適用される。再配分の過程では、エントリー枠を配分されていないI SUメンバーが優先される。

世界選手権大会の配分されたエントリー枠内で、I SUメンバーは要求された出場資格タイムに到達しているスケーターの中から選手及び最大1名の補欠をエントリーすることができる(上記2.1.2a)項参照)。

特定の出場資格取得I SU競技会とSQR Lに関する詳細規定は、年次I SUコミュニケーションで発表される。

## 2.4 【ヨーロッパ選手権大会】

### 2.4.1 エントリー枠

- 規則第201条2.1項に記載される方式の選手権大会(距離別/個人競技及びチームレース)における最大競技者数は、世界選手権大会の距離別/チーム競技の最大競技者数と同じとする。上記2.1.1を参照。I SUメンバーの最大エントリー数は、性別毎に10名とする(補欠を含む)。
- 規則第201条2.1項に記載された方式の選手権大会(オールラウンド及びスプリント複合)における最大競技者数は、男子24名、女子20名とする。  
世界選手権大会の同競技の最大競技者数と同じとする。208条3a)、4a)、6a)を参照。
- 実際の枠(競技ごとの選手数)は、年次I SUコミュニケーションで指定される。
- ヨーロッパ選手権大会の各競技における、各I SUメンバーの最大選手数は、世界選手権大会の該当競技と同じとする。上記2.1.1項を参照。
- 各I SUメンバーは、競技毎に最大1名の補欠をエントリーできる。

### 2.4.2 出場資格制度

各競技のエントリー枠は、世界選手権大会の該当競技に適用される仕組みと同じ出場資格制度に従い、ヨーロッパのI SUメンバーに対して割り当てられる。上記2.1.2項を参照。

特定の出場資格取得I SU競技会とSQR Lに関する詳細規定は、年次I SUコミュニケーションで発表される。

## 2.5【四大陸選手権大会】

### 2.5.1 エントリー枠

- 選手権大会の各競技における各 I S U メンバーからの最大競技者数は、世界選手権大会の同一競技の最大競技者数と同じとする。上記 2.1.1 を参照。
- 各 I S U メンバーは、競技毎に最大 1 名の補欠をエントリーできる。
- 実際の枠（競技ごとの選手数）とメンバー毎の最大エントリー数は、年次 I S U コミュニケーションで指定される。

### 2.5.2 出場資格制度

出場資格枠とエントリー枠についての詳細規定は、年次 I S U コミュニケーションで発表される。

## 2.6【世界ジュニア選手権大会】

### 2.6.1 エントリー枠

世界ジュニア選手権大会において、各 I S U メンバーは最大女子 5 名、男子 5 名をエントリーできる。各競技において、世界選手権大会にエントリーする最大 5 選手の中で補欠を指定できる。競技毎の最大エントリーは以下の表の通り：

ジュニア女子		ジュニア男子	
500m	5 選手	500m	5 選手
1000m	4 選手+補欠 1 名	1000m	4 選手+補欠 1 名
1500m	4 選手+補欠 1 名	1500m	4 選手+補欠 1 名
3000m	4 選手+補欠 1 名	5000m	4 選手+補欠 1 名
マススタート	2 選手+補欠 1 名	マススタート	2 選手+補欠 1 名
チームレース	1 チーム(3 選手+補欠 1 名)	チームレース	1 チーム(3 選手+補欠 1 名)

距離別 4 種目全てにエントリーした競技者は、オールラウンド競技で競う資格を得る。

## 第 209 条 【オリンピック冬季競技大会のエントリー】

### 1. 【エントリー枠】

オリンピック冬季競技大会の各版について、国際オリンピック委員会（I O C）は各性別の目標数でスピードスケート競技に申込むべき競技者の最大全体数（I O C 枠）を規定している。女子又は男子のいずれかについてそれぞれの I O C 枠目標数が I S U 規程に記述された出場資格システムにしたがって達しない場合、それぞれのエントリー枠の未使用数は他の性別の枠に属するとみなし、追加される。

- I S U メンバー、それぞれの国内オリンピック委員会（N O C）ごとの申込まれたスピー

ドスケーターの全体総数は競技者最大 20 名、女子最大 10 名、男子最大 10 名となる。I S U メンバー/N O C の全体枠は、次のように、割当てられた I S U メンバー/N O C 競技エントリー枠に基づいて、更に制限される。

- チームパシュート、マススタートを含む全ての競技/距離において枠を配分された I S U メンバー/N O C に対し女子最大 10 名、男子最大 10 名
  - 他の I S U メンバー/N O C には女子最大 8 名、男子最大 8 名
  - 申込まれた競技者（女子と男子、それぞれに）の総数は、当該の I S U メンバー/N O C の個人競技/距離に割当てられたエントリー枠の総数を超えることができない。
- 競技/距離ごとに、I S U メンバー/N O C ごとの参加競技者最大数は、以下を越えてはならない：
    - 個人競技/距離 500m、1000m、1500m（女子と男子）、3000m（女子）、5000m（男子）各 3 名
    - 個人競技/距離 5000m（女子）、10000m（男子）、マススタート（女子と男子）各 2 名
    - チームパシュート競技各 4 名。I S U メンバー/N O C ごとに最大 1 チームが各競技（女子と男子）にエントリーできる。
  - 競技/距離（競技/距離枠）ごとの競技者の最大数
    - 女子 500m、1000m、1500m： 32 名
    - 男子 500m、1000m、1500m： 36 名
    - 女子 3000m と男子 5000m： 24 名
    - 女子 5000m と男子 10000m： 12 名
    - 女子、男子マススタート： 24 名
    - チームパシュート競技： 8 チーム。各チームはスケーター最大 4 名で構成される。

## 2. 【出場資格制度】

- 出場資格制度は三つの主要要素に基づく：
  - 指定された I S U ワールドカップ競技会の結果に基づいた特別オリンピック出場資格取得順位（S O Q C）にしたがった I S U メンバー/N O C 競技枠の割り当て（各競技の出場資格順）。  
オリンピック冬季競技大会のシーズン中に開催された I S U ワールドカップスピードスケート競技会の結果に基づいた競技/距離ごとの特別オリンピック出場資格取得順位（S O Q C）にしたがい、I S U メンバー、各国内オリンピック委員会（N O C s）は、この資格取得順位を獲得する。女子と男子のチームパシュート、個人競技の各々に、S O Q C がある。
  - 出場資格タイムの達成：それぞれの I S U メンバー/N O C により手に入れられたエントリー枠以内で、オリンピック冬季競技大会にエントリーされるための資格を有するためには、スケーターはオリンピック冬季競技大会に先立つ年の 7 月 1 日とオリンピック冬季競技大会のエントリーの期限の間に I S U 出場資格タイムを達成しなければならない。適用される出場資格タイム基準と達成された資格タイムの認定の条件は、遅くともオリンピック冬季競技大会に先立つ年の 7 月 1 日までに I S U コミュニケーションに通告される。

iii) 割当てられたエントリー枠の使用(各種目/距離毎に名前エントリー): I S Uメンバー/NOCが獲得したエントリー枠をI S Uが確認した後、各I S Uメンバー/NOCは、オリンピック冬季競技大会へ(適用される期限以内に)各々の裁量で名前によるエントリーを行う。すべてのエントリーは、エントリーした競技者が、それぞれの競技/距離に設定された出場資格タイムを達成し、I S UとI O C規則による資格を有していることを前提とする。

b) 特別~~な~~オリンピック出場資格取得順位(SOQC)の定義

i) SOQCは、I S U規程やI S Uコミュニケーションに記載されたように、I S Uスピードスケート・ワールドカップ順位決定のためのI S U規則及びI S U世界距離別選手権大会の出場資格取得のためのI S U規則に基づいた基準にしたがって計算される。各SOQCは2組のランキングの組合せとなる:

- ・所定のワールドカップ競技会で獲得したワールドカップポイントによるランキング(SOQCポイントランキング)
- ・所定のワールドカップ競技会でスケーターが達成した最高タイムに基づいたランキング(SOQCタイムランキング)

ii) 2つのランキングリストのいずれかで同点の場合には、もう一方のリストで上位のスケーターがSOQCでより高い順位となる。ただし、SOQCポイントランキングの同点は、可能であれば、まずI S Uワールドカップ・ランキング規則により解決されるものとする。

iii) 各競技/距離について、SOQCポイントランキングに基づく最高位のSOQC順位のスケーター/チームの構成は、下記ようになる。(各I S Uメンバー/NOCについて、当該競技/距離の最大I S Uメンバー/NOC枠内のスケーターのみを考慮する)

女子、男子500m、1000m、1500m	20名
女子3000m、男子5000m	16名
女子5000m、男子10000m	8名
女子、男子マススタート	24名
女子、男子チームパシュート	6チーム

iv) SOQCの残りの部分はSOQCタイムランキングに基づく。

v) 長距離(女子3000mと5000m、男子5000mと10000m)について、SOQCポイントランキングは、I S Uワールドカップ規則にしたがって2距離の両方で達成されたワールドカップポイントに基づく。SOQCタイムランキングは当該距離で達成されたタイムに基づく。

c) I S Uメンバー/NOCへのエントリー枠の割当

各競技/距離のI S Uメンバー/NOCエントリー枠は、計画されたI S Uワールドカップ競技会からの結果に基づいた、競技/距離への特別なオリンピック出場資格取得順位(SOQC)にしたがって割当てられる。

競技/距離枠は:

- ・500m、1000m、1500m: 女子36名(32名)と男子40名(36名)、I S Uメンバー/NOC当たり競技/距離で最大3名

- ・女子3000m、男子5000m: 各24名、各I S Uメンバー/NOC競技/距離毎に最大3名
- ・女子5000m、男子10000m: 12名、各I S Uメンバー/NOC競技/距離で最大2名
- ・女子/男子マススタート: 各24名、各I S Uメンバー/NOC競技/距離、最大2名
- ・チームパシュート: 女子8チームと男子8チーム、スケーター最大4名で構成される各チームで、I S Uメンバー/NOCごとに女子1チームと男子1チーム。

各競技において、各I S Uメンバー/NOCのエントリー枠は、次の条件と例外に従い、各競技のSOQCにおける当該I S Uメンバー/NOCのスケーター又はチームの順位に応じて割当てられる:

i) I S Uメンバー/NOCが許された最大I S Uメンバー/NOC競技枠(女子500m、1000m、1500m、3000mで3名、男子500m、1000m、1500m、5000mで3名; 女子5000m、男子10000m、女子/男子マススタートで2名)を割当てられている時、このI S Uメンバー/NOCからの追加のスケーターは、エントリー枠の更なる割当には考慮されない。

ii) チームパシュート(8チームの枠、NOCごとに1チーム):  
オリンピック冬季競技大会を開催するI S Uメンバー/NOCは、それぞれのチームパシュート競技に1チームをエントリーする権利を有する。

iii) 競技/距離の最終のエントリー枠を決定するSOQCにおいて同点がある場合、このポジションは、I S U事務局で外部監査役の立会いの下、I S U専務理事による抽選により決定される。

iv) (上記で指定されたように)競技/距離の最大エントリー枠を満たした後、次の競技/距離ごとのSOQCポジションでエントリー枠の予備リストが構成される。個人距離について予備リストは6名で構成される。チームパシュート競技では、予備リストは予備エントリー枠3チームで構成される。

d) エントリー枠の再配分

あるI S Uメンバー/NOCsが割当てられたエントリー枠を使用しない時、未使用のエントリー枠はスピードスケートのI O C枠が超過しないことの条件の下に再割当される。再割当はSOQC予備リストのランキング順に従って行われるが、例外として、当該競技/距離についてまだエントリー枠を割当てられていないI S Uメンバー/NOCに優先権が与えられる。

e) 割当てられたエントリー枠の使用(各競技/距離の名前によるエントリー)

競技当たり、合計でI S Uメンバー/NOCにより手に入れられたエントリー枠のI S Uによる確認の上で、適用可能な期限以内に行われるべきオリンピック冬季競技大会への十分な「名前によるエントリー」は、それぞれのI S Uメンバー/NOCの自由裁量にある。すべてのエントリーは、競技者がそれぞれの競技/距離でI S Uにより設定された出場資格タイムに達していることはもちろん、I S UとI O C規則にしたがってエントリーされた競技者が有資格者であることを条件とする。

オリンピック冬季競技大会の、期限前に提出すべき「名前によるエントリー」は、どの競技者がどの種目への参加を考慮しているかを示さなければならない。各競技/距離につ

いて、示された競技者数は競技/距離に割当てられた I S Uメンバー/NOC 枠より最大 1 名以上多くすることができる。オリンピック冬季競技大会の会場で、各個人競技/距離の最終エントリーが行われる時（期限：競技の 3 日前）、I S Uメンバー/NOC は「名前によるエントリー」よってのみ競技者をエントリーできる。チームパシュート競技については、I S Uメンバー/NOCs は、その裁量で、オリンピック冬季競技大会にエントリーしているスケーターの中から（スケーター 3 名又は 4 名で構成する）チームを構成することができるが、チームのすべてのメンバーが、少なくともひとつの個人種目/距離にエントリーし、オリンピック冬季競技大会にエントリーしていることが求められる。

f) ホスト I S Uメンバー/NOC の資格取得

ホスト I S Uメンバー/NOC は、スケーターとチームのエントリーに一般的な条件を条件とするだけで、ホスト I S Uメンバー/NOC がチームをエントリーする権利をもつチームパシュート競技を除いて、他の I S Uメンバー/NOC と同様にエントリー枠の割当に関する資格取得手順と規則を条件とする。

g) 出場資格タイム

遅くともオリンピック冬季競技大会に先立つ年の 7 月 1 日までに I S Uにより通告された明細に従って I S U出場資格タイムを達成したスケーターだけが、オリンピック冬季競技大会の競技者としてエントリーされる。個人競技/距離にエントリーするためには、スケーターは当該距離の出場資格タイムに達していなければならない。チームパシュート競技にエントリーされるためには、スケーターは少なくとも個人競技/距離のひとつで出場資格タイムに達していなければならない。

h) 達成された出場資格タイムの承認条件

出場資格タイムを達成することをスケーターに認める期間は、I S Uコミュニケーションに通告される。次の競技会のみが出場資格タイムの達成のために考慮される：

- ・ I S U選手権大会と I S U選手権大会の予選競技会、
- ・ I S Uワールドカップスピードスケート競技会（遅くともオリンピック冬季競技大会に先立つ年の 8 月 1 日までに I S Uコミュニケーションに通告される）、
- ・ I S U規程第 110 条 2 項にしたがって告知された、すべての I S Uメンバーにオープンにされた国際競技会、
- ・ I S U規程第 110 条 2 項にしたがって告知されたカントリーマッチ、
- ・ 国内オリンピックトライアルとして当該 I S Uメンバー/NOC により公式に宣言された競技会を含んで、I S Uメンバーにより組織された国内選手権大会

カントリーマッチと国内選手権大会/国内オリンピックトライアルに関して、出場資格タイムの達成と考慮されるためには、開催する I S Uメンバーは 10 月 1 日までにその競技会の予定期日と場所と同様にプログラムを I S U事務局に通告しなければならない（規程第 104 条 14 項 c）参照）。競技会のアナウンスメントのコピーは遅くとも競技会の初日の 2 週間前までに I S U事務局に送られなければならない。

更に、I S U規程が遵守されなければならないし、特に限定されないが、次の条件が出

場資格タイムの達成のために薦められるべき競技会を正規にされてなければならない：

- ・ 自動計時装置を競技会で使用しなければならない。
- 競技会のレフェリーとスターターは、毎年 I S Uコミュニケーション、又はこのコミュニケーションの改正に発表されるように、当該シーズンのスピードスケートのレフェリーとスターターに承認された I S Uリストに含まれていなければならない。
- 有効な I S Uアンチドーピング規則と I S Uアンチドーピング要領書に従い、アンチドーピングテストを競技会で実施しなければならない。

i) 達成された出場資格タイムの確認と承認

I S Uスピードスケート技術委員会は達成された出場資格タイムの承認に責任がある。I S Uメンバーはオリンピック冬季競技大会に参加しようとする各スケーターの競技/距離ごとの達成された最高出場資格タイムの確認を I S Uに提出する責任がある。確認はタイムが達成された期日と会場を含むものとする。タイムが I S U選手権大会又は I S Uワールドカップ競技会で達成されない限り、リザルトのリストのコピーは同封されなければならない。更に、確認は（上述のように）達成された出場資格タイムの承認のためのすべての条件が満たされているという、開催する I S Uメンバーからの記述を含まなければならない。そのような通知を提出する期限は I S Uコミュニケーションに通知されるものとする。

j) エントリー枠の確認/辞退/調整

それぞれの競技のエントリー枠の割当に関する資格取得プロセスの終了後、I S Uは割当てられたエントリー枠を一時的に通知する。NOC はそれらのエントリー枠の使用を I S U事務局に確認及び/又は辞退しなければならない。これらの NOC からの反応がオリンピック冬季競技大会の I O Cスピードスケートの全体枠が超過していることを示す場合、幾つかの NOC が当該競技の割当てられたエントリー枠を一時的に失うという結果をもって、個人競技/距離の競技者の最大数は調整される。最初の段階では、調整されたエントリー枠は I O C枠に達するまで、500m に始まり、次に 1000m、そして 1500m と、競技者 1 名により競技の競技者の最大数の削減に基づく。それぞれの競技/距離の最後に手に入れたそれぞれのエントリー枠は最初に除外される。必要であれば、次の段階が同じ競技/距離の競技者の最大数に更なる削減に基づいて上述と同じ方法でエントリー枠を調整することになる。

k) 未使用エントリー枠の再割当

未使用エントリー枠は予備リストと他の基準及び前述の条件に基づいた、各競技/距離の継続的基礎に再割当される。

l) 追加規程

スケーターのシーディングと組ヒートの抽選に関して、各競技距離の最終エントリーの提出に関する詳細は、スピードスケートの I S U特別規程と技術規則に与えられる。

## D. 競技役員とその義務

### 第210条 【必要な競技役員】

1. 少なくとも次の競技役員が必要である：
  - a) レフェリー 1名、
  - b) アシスタントレフェリー 1名、
  - c) スターター 1名 及びそのアシスタント、
  - d) 手動計時手順をサポートし、規則第 260 条 2 項のあらゆる違反を監察するフィニッシングラインジャッジ 1 名；
  - e) 手動計時担当チーフタイムキーパー 1 名とマニュアルタイムキーパー最少 4 名；
  - f) 自動計時が用いられている時：自動計時手順担当チーフタイムキーパー 1 名、及び使用される（規程第 251 条に定義された）各自動計時システム担当アシスタント・チーフタイムキーパー。
  - g) ラップスコアラ 数名、
  - h) トラックジャッジ：コーナージャッジ 2 名、各カーブに 1 名（オリンピック冬季競技大会、I SU 選手権大会及び他の I SU イベントに関しては各カーブに少なくとも 2 名）、フィニッシュ側ストレートでラインの横断を監察するジャッジ<ラインズマン>少なくとも 1 名、及び交差コントローラー 1 名。
  - i) これらの競技役員に関して必要な交代要員；  
オリンピック冬季競技大会、I SU 選手権大会及び他の I SU イベントに関して：
  - j) アイス・テクニカルエキスパート 1 名
  - k) エントリーの管理と抽選手順の準備にレフェリーを補佐するスポーツエキスパート 1 名。
2. I SU 選手権大会とオリンピック冬季競技大会に関して、女子競技と男子競技はそれぞれ別のレフェリーとスターターのチームをもつものとする。  
各チームは、レフェリー 1 名、アシスタントレフェリー 1 名及びスターター 1 名または 2 名により構成される。

### 第211条 【競技役員の任命】

競技会を開催するメンバー又は加盟クラブは、競技役員を任命する権限が与えられる（I SU 選手権大会の例外については第 214 条、オリンピック冬季競技大会の例外については第 215 条を参照）。すべての競技役員は有資格者でなければならない。

### 第212条

#### 【I SU 選手権大会とオリンピック冬季競技大会のレフェリーとスターターの指名推薦】

1. I SU のすべてのメンバーは、以下の役務を推薦される者の氏名を 4 月 15 日までに I SU 事務局に通知するものとする。

- a) I SU レフェリー（4 名以内）、規則第 121 条 1 b) 参照、
- b) I SU スターター（3 名以内）、規則第 121 条 1 b) 参照。

指名推薦は公式書類に正確に記入し、2 カテゴリー別々に提出されなければならない。

2. I SU メンバーによって指名推薦されたレフェリー/スターターは、通常指名推薦する加盟メンバーの国の国籍を有しているものとする。
3. I SU メンバーが外国籍のあるレフェリー/スターターを指名推薦する場合、当該レフェリー/スターターは、国民であるその国のメンバーの承認を得た場合のみ受理される。  
そのようなレフェリー/スターターの氏名は、レフェリー/スターターを指名推薦するメンバーのリストに掲載されているものとする。そのように指名推薦されたレフェリー/スターターは、メンバーの指名推薦枠に数えられる。
4. I SU のメンバーは、適切な I SU 規則及び英語の知識に通じた、十分な経験を有し、適格性のある、完全に公平な者のみをレフェリー/スターターとして指名推薦することに細心の注意を払うものとする。規則第 122 条 1 項 c) も参照。
5.
  - a) 7 月 1 日以前に満 65 歳に達した者は、それ以後の I SU 選手権大会とオリンピック冬季競技大会における I SU レフェリーの資格を喪失するものとする。
  - b) 7 月 1 日以前に満 60 歳に達した者は、それ以後の I SU 選手権大会とオリンピック冬季競技大会における I SU スターターの資格を喪失するものとする。
6. 指名されたレフェリー/スターターの中から、スピードスケート技術委員会は、I SU レフェリー又はアシスタント・レフェリー（A）として役務できる者を最大 25 名、及び I SU スターターとして役務できる者を最大 25 名、を 1 年間認可する。
7. スピードスケート技術委員会によって登録されたレフェリーとスターターの完全なリストは、毎年 8 月 1 日までに I SU メンバーに通知されなければならない。

### 第213条 【国際競技会と国内選手権大会のレフェリーとスターターの指名推薦】

I SU のすべてのメンバーは、国際レフェリーと国際スターターとして役務するためにメンバーによって認可されたレフェリーとスターターの氏名を、4 月 15 日以前に I SU 事務局あてに告知するものとする、規則第 121 条 1 項 b) を参照。

### 第214条 【I SU 選手権大会のレフェリー、スターター及び他の競技役員の任命】

1. I SU 選手権大会のレフェリー、アシスタントレフェリー及びスターターは、一般規程の規則第 129 条 4 項にしたがって任命されるものとする。
2. 選手権大会競技の各カテゴリー（それぞれ女子競技と男子競技）のレフェリーとアシスタントレフェリーは、国籍が異なるものとする。各カテゴリーのスターター 2 名についても同様に適用する。  
任命は、組織するメンバーによる指名の要望を考慮した上で決定されるものとする。指名は遅くとも 8 月 15 日までに I SU あてに提出されていなければならない。
3. I SU 選手権大会に関して、任命されたレフェリー、アシスタントレフェリー及びスターターは、I SU 代表と I SU スピードスケート技術委員会代表と同様に、選手権大会の始まる

60 日前には組織するメンバーによって招待されなければならない。

4. I S U選手権大会に関して、(I S U代表とI S Uスピードスケート技術委員会代表を除く)必要とされるすべての他の競技役員は、組織するメンバーによって任命されるものとする。

### 第 2 1 5 条 【オリンピック冬季競技大会の競技役員の任命】

1. 規則第 121 条により、オリンピック冬季競技大会スピードスケート競技のレフェリー、アシスタントレフェリー及びスターターは、I S UレフェリーとI S Uスターターでなければならない。
2. 任命は、規則第 126 条 8 項と第 214 条 2 項にしたがってなされる。
3. 任命されたレフェリー、アシスタントレフェリー及びスターターは、オリンピック冬季競技大会の始まる 60 日前には組織委員会によって招待されなければならない。
4. (I S U技術代表以外の) 必要とされるすべての他の競技役員は、オリンピック冬季競技大会が開催される国のI S Uメンバーによって任命されるものとする。
5. 本条 1 項に従い、任命された競技役員の氏名は、I S Uによって、当該I S Uメンバー及びオリンピック冬季競技大会の組織委員会に通知されなければならない。
6. 任命された競技役員は、役員している期間、ナショナルチームのエンブレム又はユニフォームを着用することは許されない。

### 第 2 1 6 条 【レフェリーの義務と権限】

1. レフェリーには次の責任がある：
  - a) 競技役員と競技者の出場資格を審査すること。
  - b) 規則第 239-244 条にしたがって、抽選又は組の編成。
  - c) 規則第 245 条と第 246 条にしたがって、組の調整と再編成。
  - d) 監督している競技会について、すべての適用可能な規則が守られているかどうかを注意すること。
  - e) スターターの権限の属するスタート手順に関連する事項(規則第 217 条参照)を除いて、I S Uスピードスケート特別規程及び技術規則の違反の場合に、競技者の失格に関する全ての裁定を行う。
  - f) I S U選手権大会、オリンピック冬季競技大会、他のI S Uイベント及び国際競技会において、製氷(規則第 229 条参照)に関する情報を与えること。
2. レフェリーは次の権限を有する：
  - a) 氷の状態及びトラックの安全措置が競技会の開催を許可するかどうかを決定する。
  - b) 不都合な事態が発生した場合、トラックの形状や規格を変えたり距離を変更したりする。
  - c) I S U規程に矛盾しない限りにおいて、競技会の告知されたプログラムを変更する。
  - d) 組織するメンバー又は加盟クラブの同意により、競技の開催のために他のリンクを容認すること。I S Uイベントでは、上述の決定は競技会に任命されたI S U代表(s)と協議の上でのみ行うことができる。

- e) 無効を宣言されたレースが再開されるべきか、いつ、どこで再開されるべきか決定する。
- f) 必要な場合、競技から競技者を、及びコーチエリア(規則第 227 条 3 項参照)からコーチを排除する。
- g) 転倒又は負傷した競技者がいて、安全の心配がある場合に進行中のレースを止める。
- h) 観衆が統一的行動で競技会を中断又は妨害した場合、秩序が回復されるまで滑走を一時中止させる。
- i) 極度に寒い天候の場合に競技会を中止又は延期させる(下記 4 項 c)も参照)。
- j) スターター又は他の競技役員を交代させる。

3. レフェリーは次の事項を裁決する：

- a) スタート(規則第 217 条 1 項参照)及びフィニッシュラインにおけるジャッジの判定(規則第 220 条 1 項参照)に関する事項を除き、なされたすべての抗議及び論争中の他の事項。
- b) 抗議がなされない場合においても、I S U規程の違反に関するすべての事項。

- 4.

- a) 選手権大会のある 1 日に距離の一つ(又は 2 回滑走すべき距離の最初のレース)が申し分なく完了されていて、レフェリーの決定によって第 2 距離(又はレース)が翌日に延期された場合、完了した距離(又はレース)を再滑走しないものとする。  
申し込んだすべての競技者がまだその距離(又はレース)を完了する前に、何かの理由により、レフェリーがある距離のレースを中断し、競技を翌日に延期しなければならない場合、すべての競技者は翌日にその距離で再スタートしなければならない。
- b) I S U選手権大会及びI S Uイベント(即ち、ワールドカップ競技会)に関して、レフェリーは、競技会をその日の遅く又は翌日までレースを延期する理由として、 $-20^{\circ}\text{C}$  ( $-4^{\circ}\text{F}$ )という気温要因を承認するものとする。風が実際の気温を低下させることにより凍傷の危険を増加させるということを考慮することは重要である。
- c) 不都合な天候又は他の異常な事態の場合に、レフェリーは、選手権大会を確実に完了するため、第 3 日目か第 4 日目に一つか両方のレースを延期することを決定できる。選手権大会の組織委員会は、追加日数の宿泊費を支払うものとする(規則第 137 条 14 項参照)。

### 第 2 1 7 条 【スターターの義務と権限】

1. スターターはタイムキーパーが準備できているという確認を受けた後、それぞれのスタートライン上に競技者を呼び出すことによりスタート手順に着手する。スターターは英語でスタートの号令を与えるものとする(規則第 255 条 2 項参照)。
2. スタート手順の間、即ち、競技者がスタートレーンに着こうとしている瞬間からペア又はヒートの有効なスタートが完了するまで、競技者はスターターの号令と管理下にある。スターターは前述の期間スタート手順に関係するすべての紛争を裁決するものとする。ただし、不正スタートを検知する装置が使用されている場合、例外が適用される。(規則第 255 条 1、2 項参照)
3. スターターは、ペア又はヒートでスタートする競技者がはっきりと見える位置に付くものとする。

## 第218条 【トラックジャッジの義務】

1. 各カーブでコーナージャッジ及びフィニッシュ側ストレートを監察するジャッジは、競技者によるレーシング規則のあらゆる違反を監視し、何らかの違反を察知した場合は速やかにレフェリーに通知するものとする。

フィニッシュ側ストレートを監視するジャッジ(s)はトラックの外側に位置するものとする。各カーブにジャッジ2名が指名された競技会では、それぞれ各カーブの入口と出口でトラックの内側に位置するものとする。追加のコーナージャッジが利用できる場合には、第3ジャッジは各カーブの入口でトラックの外側に位置するものとする。

2. 交差コントローラーは、内側トラックレーンの内側に位置し、一方のレーンから他方に交差しようとする競技者の不正を監視するものとする。

## 第219条 【ラップスコアラーの義務】

ラップスコアラーは、さらに滑走すべき周回数を明示しなければならない。最終回の始まりの20～30m手前で、バルによる合図を競技者に与えるものとする。

## 第220条 【フィニッシュラインジャッジの義務】

フィニッシュラインジャッジは、どちらの競技者が勝者か、又は同着かを判定するものとする。この判定に対し上訴することはできない。ただし、規則第251条に従って自動計時が使用されている場合、記録されたタイムにより、ペア又はレースにおいてどちらが勝者、又は同着かを決定するものとする（規則第265条も参照）。

## E. 世界記録

### 第221条

#### 1. 【世界記録イベント】

ISUは、以下の世界記録を登録する：

a) 男子：500m、1000m、1500m、3000m、5000m、10000m距離別

2x500mの総合結果（500mの最終結果が2レースの合計タイムにより決定される競技の場合）、単一の競技会における4距離による総合得点

500m、5000m、1500m、10000mのオールラウンド総得点

500m、3000m、1500m、5000mのオールラウンド総得点

500m、1000m、500m、1000mのスプリント総得点

ナショナルチーム：8週のチームパシュート、3週のチームスプリント

b) 女子：500m、1000m、1500m、3000m、5000m距離別

2x500mの総合結果（500mの最終結果が2レースの合計タイムにより決定される競技の場合）、単一の競技会における4距離総合得点

500m、3000m、1500m、5000mのオールラウンド総得点

500m、1500m、1000m、3000mのオールラウンド総得点

500m、1000m、500m、1000mのスプリント総得点

ナショナルチーム：6週のチームパシュート、3週のチームスプリント

c) ジュニア男子：500m、1000m、1500m、3000m、5000mの距離

2x500mの総合結果（500mの最終結果が2レース後の合計タイムにより決定される競技の場合）、単一の競技会及における4距離による総合得点

500m、1000m、1500m、5000mのオールラウンド総得点

500m、1000m、500m、1000mのスプリント総得点

ナショナルチーム：8週のチームパシュート、3週のチームスプリント

d) ジュニア女子：500m、1000m、1500m、3000m距離別

2x500mの総合結果（500mの最終結果が2レース後の合計タイムにより決定される競技会の場合）

単一の競技会における4距離による総合得点

500m、1500m、1000m、3000mのオールラウンド総得点

500m、1000m、500m、1000mのスプリント総得点

ナショナルチーム：6週のチームパシュート、3週のチームスプリント

#### 2. 【遵守すべき条件】

ISU理事会は、規則第107条1、2、3、5、8、9項及び12項に記載された競技会、又は認定条件がスピードスケート技術委員会により確認されているもので、正しく告知された国内選手権大会において、達成された結果のみを世界記録として認定する。

世界記録の認定のための一般条件：

- a) 競技会のアナウンスメントが規則第 110 条に従って刊行されていなければならない。  
(規則第 107 条 8 項と 9 項にはっきり記述された) 国際競技会及び国内選手権大会について、  
競技会の詳細なプログラムを付けたアナウンスメントが、その競技会の少なくとも 4 週間前  
に I S U 専務理事によって受領されていなければならない。
- b) 滑走すべき距離とスタート時間がアナウンスメントに一致していなければならない。唯  
一の例外は規則第 216 条 4 項にしたがってなされた変更である。
- c) 規則第 228 条に与えられた条件により、トラックは 400m の標準スピードスケート・ト  
ラックでなければならない。
- d) 競技会のレフェリーは、当該シーズンのために規則第 121 条に定義された I S U レフェ  
リーのリストに所属していなければならない。
- e) 優先システムとしてフォトフィニッシュ装置を使用する自動計時が使用されていなか  
ればならない(規則第 248 条、第 250 条及び第 251 条参照)。
- f) 主催する I S U メンバーは、下記 3 項に記述された関係書類を付けた I S U 世界記録申  
請書を、遅くとも当該シーズンの 5 月 1 日までに I S U 専務理事に提出しなければならない。  
提出された書類は、すべての適用される条件が満たされていることを確認しなければ  
ならない。

世界記録の承認に関する追加条件：

- g) 既存の世界記録が、同一会場の競技で同日に二度以上破られた場合、樹立された最高記録  
のみが世界記録として認定されるものとする。ただし、500m の最終順位が 2 つのレースの  
合計タイムに基づいて決定される時、各 500m レースは別の競技と見なされる。
- h) 各距離で世界記録を樹立したスケーターは、その世界記録が認定されるには、レース当  
日ドーピングコントロールの対象となり、陰性の検査結果を示さなければならない。
- i) チーム競技については、その世界記録が認定されるには、各チーム少なくとも 2 名のス  
ケーターが、レース当日にドーピングコントロールの対象となり、陰性の検査結果を示  
さなければならない。
- j) 既存の世界記録が、同一会場の競技で同日に二度以上破られた場合、世界記録を樹立し  
た上位 2 名のスケーターまたは上位 2 チームは、レース当日にドーピングコントロールの  
対象として選ばれなければならない。
- k) 女子 3000m と 5000m 及び男子 5000m と 10000m の世界記録は、I S U 選手権大会、ワ  
ールドカップ競技会及び他の I S U 競技会においてカルテットスタートで樹立されたタ  
イムに関しても承認される。
- l) ジュニア女子 3000m 及びジュニア男子 3000m と 5000m の世界記録は、I S U 選手権大  
会、ワールドカップ競技会及び他の I S U 競技会においてカルテットスタートで樹立さ  
れたタイムに関しても承認される。
- m) 4 距離にわたるオールラウンド複合における総合得点の世界記録は、競技会が最長 3  
日間以内で開催され、かつ各距離が I S U 選手権大会で認められた順序で滑走された場  
合にのみ認定される(規則第 201 条 2 項と 7 項参照)。更に、各距離はアナウンスメント  
で指示された順序で滑走されなければならない。
- n) スプリント複合における総合得点の世界記録は、競技会が 2 日間で開催され、個々の距

離を各日 1 回のみ滑走し、2 日目にスターティング・レーンを替えて滑走した場合(規  
則第 242 条参照)にのみ認定される。

- o) 国内選手権大会において樹立された記録は、当該 I S U メンバーによって国内記録とし  
て認定された場合のみ、世界記録認定で考慮される。

### 3. 【提出及び発行すべき文書】

大会主管 I S U メンバーは、規則第 273 条に従い、競技会の公式プロトコルの原本、トラック  
の証明書、使用された計時装置の証明文書、世界記録申請書式で指定された他の支持文書を、  
I S U 専務理事に提出しなければならない。

現在の世界記録と同一記録を出し、上記 2 項に従い I S U により承認された結果を有する競技  
者名は、世界記録の I S U リストに記載されるものとする。

樹立された世界記録、又は世界記録同一記録に関して、I S U はスケーターに認定書を発行す  
るものとする。

## F. ワールドカップ

### 第 2 2 2 条 【スピードスケート・ワールドカップ】

1. 男女のワールドカップは、スピードスケート技術委員会の責任の下に I S U 競技会として組  
織される。エントリーのプロセスに関しては、規則第 208 条 1.1 項が適用されるが、I S U コ  
ミュニケーションまたは大会アナウンスメントで示されている場合、異なる締め切りが適用  
されうる。
2. スピードスケート・ワールドカップとは、一連の国際競技会をいう。ワールドカップポイン  
トが各競技会に与えられる。各距離、又は距離カテゴリーに関して、及びチーム競技に関し  
て、ワールドカップ最終順位はシーズン中に競技しているスケーター又はナショナルチーム  
が積算したワールドカップポイントによって決定される。ワールドカップシーズン中に開催  
されたレースから到達された「グランドワールドカップポイント」の合計に基づいた、グラ  
ンドワールドカップランキングが発行される。
3. 規則とプログラムは、ワールドカップに関する特別な I S U コミュニケーションで発行され  
る。

## G. 競技者のスポーツ用具

### 第 2 2 3 条

#### 1. 【レーシングスーツと安全装備】

- a) レーシングスーツは、スケーターの身体の自然な体型と一致するものとする。外形の挿入  
又は取り付け或いは異なる体型を作り出す装置は認められない。薄さ最大 0.5cm で、幅最大  
2.5cm のストライプを永久的に付けることを除いて、付属品は許されない。傷害に対する保  
護の目的で、競技者はレーシングスーツの内側にシンガードとパッド付ニープロテクショ  
ンを装着することができる。競技者は、レーシングスーツの外側にヘルメット、ネックブ

ロテクション、手袋、ミトンを着用することができる。I S U競技会においては、(頭部の自然な形状に沿った)通常の形状で、ショートトラックスピードスケートで承認された仕様(規則第 291 条 1 項 a) に準拠したヘルメットだけが許可される。

I S Uは、許可されるレーシングスーツと安全装備の使用に関する更なる詳細を発行することができ、I S Uコミュニケーション又はI S Uサーキュラーで告知するものとする。

- b) I S U選手権大会とI S U競技会において、同一のナショナルチームのスケーター(同一I S Uメンバーによって申し込まれた競技者)は、同一のデザインで、国の名称、又はI S U公式略称を示したレーシングユニフォームを着用しなければならない。競技者名は国名のそばに表示してもよい。(一般規定第 1 0 2 条 6 項を参照)
- c) I S U選手権大会、ワールドカップ競技会、その他のI S U競技会、冬季オリンピック競技会において、同一ナショナルチームに所属する競技者のウォームアップスーツは、国の名称、又はI S U公式略称を表示しなければならない。I S U選手権大会、ワールドカップ競技会、その他のI S U競技会において、スケーターの名前を国の名称の近くに表示してもよい。(一般規程第 102 条 6 項参照)

## 2. 【スケート】

- a) スケートは、滑走技術を容易にすることを意図した脚の受動的な機械的延長である。スケートは、競技中意図的に変化しない寸法をもつ素材でできたブレードとシューズからなり、さらにシューズがブレードに接続した構造からなる。スケーターの安全を損なわない限り、スケーターの身体的能力を最大限に利用するため、この構造はブレードに対するシューズの移動と回転を許容する。  
スピードスケートの際に発生するすべてのエネルギーは、レース中のスケーターによる代謝作用によるものであるという要件を侵す要素を、スケートは持たないこと。スケーターとスケートとの間には、脚の下部と足の解剖学的な構造の他には接続はなく、スケートへのエネルギー、物質又は情報の伝達はない。特に、外的要因、又は人工的機構によって、スケートのブレードを加熱することは認められない。
- b) どんな種類の用具がスピードスケート競技に認められているかに関する混乱を避けるために必要と考えられれば、I S Uは許容されるスケートの定義に関する更なる詳細を発行してもよく、それは後にI S Uコミュニケーション又はI S Uサーキュラーレターに告知されるものとする。

## 3. 【装備規定違反】

適切な又は必要とされる装備に関して、上記 1. a)、2、及び規則第 279 条第 1、2、3、4 項を遵守しない競技者は失格となる。

規則第 224-225 条は、今後のスピードスケート特別規程条文追加のため保留とする。



標準スピードスケート・トラックの例

1 = 2 x mean axis = 2 x A	3 = Outer Curve = C x $\pi$
2 = Inner Curve = B x $\pi$	4 = Crossing =
$\sqrt{A^2 + (\text{width of track})^2} - A$	

**400 m Tracks**

Radius inner curve	25 m	Radius inner curve	25.5 m
Width of each track	4 m	Width of each track	4 m
1 = 2 x 113.57	= 227.14 m	1 = 2 x 112.00	= 224.00 m
2 = 25.5 x 3.1416	= 80.11 m	2 = 26 x 3.1416	= 81.68 m
3 = 29.5 x 3.1416	= 92.68 m	3 = 30 x 3.1416	= 94.25 m
4 =		4 = $\sqrt{112^2 + 4^2} - 112$	= 0.07 m
$\sqrt{113.57^2 + 4^2} - 113.57$	= 0.07 m		
	<u>400.0 m</u>		<u>400.0 m</u>

Radius inner curve	26 m
Width of each track	4 m
1 = 2 x 110.43	= 220.86 m
2 = 26.5 x 3.1416	= 83.25 m
3 = 30.5 x 3.1416	= 95.82 m
4 =	
$\sqrt{110.43^2 + 4^2} - 110.43$	= 0.07 m
	<u>400.0 m</u>

**333 1/3 m Tracks**

Radius inner curve	26 m	Radius inner curve	25 m
Width of each track	4 m	Width of each track	4 m
1 = 2 x 77.08	= 154.16 m	1 = 2 x 80.22	= 160.44 m
2 = 26.5 x 3.1416	= 83.25 m	2 = 25.5 x 3.1416	= 80.11 m
3 = 30.5 x 3.1416	= 95.82 m	3 = 29.5 x 3.1416	= 92.68 m
4 = $\sqrt{77.08^2 + 4^2} - 77.08$	= 0.10 m	4 = $\sqrt{80.22^2 + 4^2} - 80.22$	= 0.10 m
	<u>333.33 m</u>		<u>333.33 m</u>

**第226条 【競技トラックの境界表示】**  
(特別規程の規則第203条と第204条参照)

競技レーンの境界表示に関して、ストレートとカーブの両方に、5cm幅で、完全に着色されたラインが用いられるものとする。

通常またインドアトラックでは常に、カーブの最初の15mに50cm間隔で、カーブの残りの部分に2m間隔で、カーブにおけるレーンの境界表示はゴム製又は合成材質の(最大高さ5cm)可動性のブロックを含まなければならない。ブロックは着色されたラインの内側に接するものとする。閉鎖状のコーン(高さ20-26cm)が各カーブの入口に最初のブロックとして用いられるものとする。境界表示に視界のために必要と考えられる時は、ブロックが各ブロック間10mの距離で、ストレートの着色された境界表示ライン上に設置されてもよい。

屋外トラックでは、可動性ブロックの代わりに雪を用いてもよいが雪は凍っていない。スノーラインは交差ストレートを除き競技トラック全体に設置するものとする。

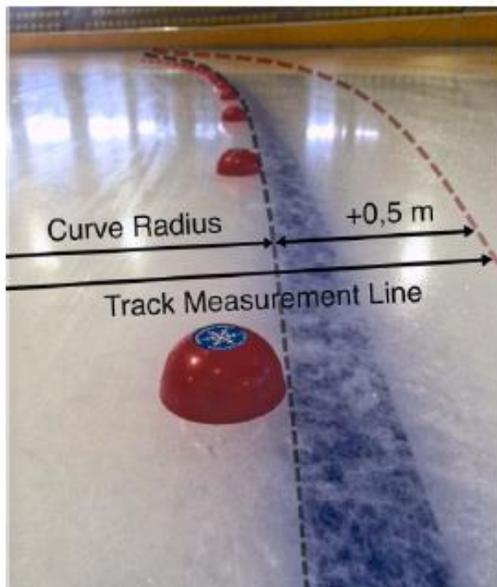
レフェリーは、境界表示が規則に適合しているかどうかを決定する。

**第227条 【トラックのレイアウト】**

**1. 【測定】**

トラックは、測定のために派遣された資格を有する測量士によって、固定されたすべてのスタートラインとフィニッシュラインの正しい位置で、測定されなければならない。測量士によって署名された証明書は、競技会の開始前にレフェリーに手渡されるものとする。このプロトコルは1年毎に資格のある測量士によって再確認されない限り、1年間のみ有効である。

トラックの測定は、内側の縁の外側50cmで行われるものとする。



## 2. 【スタートラインとフィニッシュライン】

スタートラインとフィニッシュラインは、ストレート又はその延長上に直角に引かれ、幅5cm以内の着色されたラインによって表示されていなければならない。プレースタートラインは、スタートラインの手前2mに設定されるものとする。フィニッシュライン前の最後の5mについては、1mごとのラインがはっきりと表示されるものとする。(38ページの図参照)

標準400mトラックにおいて、全距離のスタートラインとフィニッシュラインは、フィニッシュ側ストレートに直角とする。1000mのフィニッシュラインは、フィニッシュ側ストレートの中央に、スタートラインはそれに準じて設定されるものとする。

チームパシュートレースとチームスプリントレースでは、スタートラインとフィニッシュラインはストレートの中央に設定される。他のすべての距離に関して、フィニッシュラインはフィニッシュ側ストレートの終りに向かって設定されるものとし、スタートラインはそれに準じて設定される。(38ページの図を参照)

他のトラックにおいて、スタートラインとフィニッシュラインは、スタート、フィニッシュのいずれもカーブにかからないように設定するものとする。

## 3. 【コーチのエリア】

コーチのために、交差ストレートに特別に表示された区域を設定するものとする。コーチエリアはトラックの外側の縁から1mに引かれ、幅2cmのラインにより表示されるものとする。ラインはカーブ出口から25mに始まり、交差ストレートを通り次のカーブ入口10m前までとする。チームパシュートレース中、各チームのコーチエリアは各チームがスタートする反対のストレート上とする。スタート手順の間、コーチはスターター及び競技者のスタートラインから少なくとも20m離れていなければならない。

- 1000m以下の距離に関して、及びカルテットスタートによるレースに関して、各競技者につき最大1名がコーチエリアに入ることができる。カルテットスタートでない長い距離に関して、及びチームパシュートレースに関して、各競技者又はチームに最大2名がコーチエリアに入ることができる。マススタート及びチームスプリントレースにおいては、コーチはコーチエリアに入ることはできない；
- フォトフィニッシュとテレビカメラのフィニッシュラインの視界を確保するため、コーチはチームパシュートレース中、フィニッシュラインエリアを通過してはならない。
- 競技中(レースが行われている間)コーチはウォームアップレーンでスケーターに同行することは許されない。

## 第228条 【スケーターの安全を確保する措置】

### 1. 【事故を回避する措置】

事故に対してスケーターの安全を確保する措置が講じられなければならない。レフェリーは競技開始前にそのような措置を確認し承認しなければならない。ウォームアップや練習の際、スケーターとコーチは、事故のリスクを軽減するよう意識して行動する責任を持つ。

## 2. 【防護措置一全ての競技会のための最低要件】

滑走トラックとレーシングレーンの境界を固定された杭によって示すことは認められない。恒久的に設置するものは、スケートディングトラックの内側のエッジから少なくとも3m離れていなければならない。

スピードスケート競技会の組織者はスケーターがスケートディングトラック(レーシングレーンとウォームアップレーン)の内側に留まることができない状況での事故に対して十分な防護を用意するものとする。屋外トラックでは、雪が凍っていないという条件のもと、保護のため雪を使用してもよい。適切な質の雪が十分に無い場合、以下の最低要件を備えた防護マット(パディング)の使用が義務づけられる：

- 使用されるマットのデザインと素材は、スケーターがパディングに衝突した時、十分な吸収効果をもたなければならない。
- パディングの表面は防水素材で、切れにくいものでできているものとする。
- 防護マットは少なくとも高さ80cm、少なくとも厚さ30cmあるものとする。
- マットはカーブと各カーブ出口から少なくとも20mのストレートまで、使用しなければならない。
- スケートディングトラックの内側エッジから3m以内にある固定障害物(例：フェンス、ベンチ、ポール)は、十分なパディングで防護しなければならない。
- スケーターがパディングに衝突した場合、その固定方法が著しい負傷を引き起こすことがないような方法で固定しなければならない。

## 3. 【ISUイベントとオリンピック冬季競技大会の防護措置】

ISU選手権大会、他のISU競技会及びオリンピック冬季競技大会の組織者は、上記2項に記述された最低限の措置を超えた防護を準備しなければならない。これらの競技会の組織者はISUスポーツディレクター又は競技会のISU代表/技術代表が、提案された解決法を検討するための相応な時間的余裕をもって、関連する技術的又は科学的なテスト結果を含む、既存又は計画された安全設備の技術的詳細を提出しなければならない。

以下の条件とガイドラインが遵守されなければならない：

- マットは長方形又は梯形(不等辺四辺形)、又はスケーターの適切な防護を準備するのみふさわしいと立証されている他の形状、のいずれかであること。適切な防護の質(跳ね返り効果を減少させる衝突の吸収)が技術的/科学的テストを通じて立証され得ることを条件に、マットは異なる密度、又は他の素材又は溶解をもつ複数の泡の層で、構成されていてもよい。
- 防護カバーは研磨されていない、弾力のない防水素材で構成されるものとする。屋外リンクでは、水と雪がマットの内側構造に達することを避けるように適合していなければならない。重なり合うVelcro帯は滑らかな外部表面を提供するようにマット間の継ぎ目を覆うものとする。
- 防護マットは少なくとも厚さ60cmあるものとする。観客に対して十分な視角を与えるために、最小の高さは100cmとし、120cmを超えるものとしなない。
- 防護マットはストレートの全長及びカーブに使用されていなければならない。
- スケートディングトラックの内側エッジから3m以内にある固定障害物(例：フェンス、ベンチ、ポール)は、十分なパディングで防護しなければならない。

- f) パディングは、転倒したスケーターが衝突でマットの下に潜ることを制止するように固定されていなければならない。マットが氷上に置かれている場合に、パディングの下に障害物又は鋭い角がない滑らかな氷表面が保障されていなければならない。パディングの動きを制御するために用いられるベルト又は他のシステムが適当な位置にあり、連続的に制御されていなければならない。カーブのパディングをしっかりと留めるための支柱の使用は避けるものとし、又は支柱に応用された追加の適切な防護により少なくとも最小限に減らされるものとする。
- g) 上記 a) から f) に示された適切な防護は公式トレーニング期間中にも設置されていなければならない。

適切な安全措置に関する更なる詳細は I S U コミュニケーションに及び/又は関連する I S U メモランダムにいつでも与えられる。上記明細書は、国際競技会及び他のハイパフォーマンス・スピードスケート競技会の組織者のためのガイドラインとしても考慮されるものとする。

## 第 2 2 9 条 【 I S U 競技会及び冬季オリンピック競技会における製氷手順】

### 【 I S U アイスコミッション】

I S U 競技会における I S U アイスコミッションは、レフェリーとスピードスケート技術委員会代表（又は、技術委員会代表がない場合は別の I S U 代表）又は I S U 技術代表によって構成するものとする。アイスコミッションはアイスリンクのテクニカルエキスパートと協議の上、参加者に平等な条件を提供するよう製氷手順を決定するものとする。

その製氷手順はオープニングドロー前のチームリーダーズミーティングで、チームリーダーに通知する。スタートリスト発表時、詳細な製氷スケジュールチームリーダーに提供される。（規則第 216 条 1f）を参照）

I S U アイスコミッションは、発表された製氷スケジュールを変更する権利を持つ。その場合、変更内容と改訂スケジュールを速やかにチームリーダーに通知する。

### 【アイス・テクニカルエキスパートからの情報】

アイスリンクのアイス・テクニカルエキスパートは、製氷スケジュールの決定と、競技中の全ての段階での氷とレースの状態のモニターに関するあらゆる情報を、I S U アイスコミッションに提出しなければならない。これは、競技中の氷温と気象条件に関する統計資料は勿論、異なる観客収容下で、異なる気候と気象条件（気温、氷温、気湿、雪、風力、気圧など）下での製氷手順に関する過去のデータ、製氷中に使用される水の質と量（温度、化学的添加物等）を含む。

I S U アイスコミッションは、上述されたデータを準備する装置又はシステムに直接アクセスの機会を与えられるものとする。インドアトラックにおいて、アイス・テクニカルエキスパートは、レース中いかなる時にも風又は気流の状態に関する情報を提供しなければならず、競技トラックのレベルにおける気流の違いによる不平等な状態を避けるためトラックの換気システムを調整する責任を持つ。

## B. 競技会の組織

### 第 2 3 0 条 【選手権大会のアナウンスメントと運営】

（一般規程第 129 条<別冊 I S U 一般規程>参照）

### 第 2 3 1 条 【 I S U 選手権大会中の通達】

（一般規程第 132 条参照）

### 第 2 3 2 条 【アナウンスメントの期日と内容、補足事項】

（一般規程第 110～112 条参照）

### 第 2 3 3 条 【アナウンスメントの遅延】

（一般規程第 113 条参照）

### 第 2 3 4 条 【競技会期日の延期、アナウンスメントの取消し】

（一般規程第 114 条参照）

### 第 2 3 5 条 【エントリー、ニックネーム/通称、追加エントリー】

（一般規程第 115 条参照）

### 第 2 3 6 条

（予備）

### 第 2 3 7 条 【競技会の成立】

（一般規程第 118 条参照）

### 第 2 3 8 条 【 I S U 選手権大会での費用、スケーターと役員への費用の補償】

（一般規程第 137 条参照）

## C. 抽選手順

### 第239条

#### 1. 【アナウンスメントと抽選に関する公開会議】

当該競技会の開始前、組織委員会は最初のドローの会議を開催する責任がある。この会議において、競技者のエントリー、競技スケジュール、主要な競技役員の氏名、スタート順、競技初日のスタートリストが通知される。

#### 2. 【ISU選手権大会と他のISU競技会の抽選】

##### 2.1.

- ISU競技会において、レフェリーは、最初のドローの前にチームリーダーズミーティングを開催するものとし、競技会に参加者を申し込んでいる各ISUメンバーは、チームリーダーズミーティングに出席することが求められ、指定した1名のみのチームオフィシャルを代表者とする。
- 最初のドローの前のチームリーダーズミーティングにおいて、チームリーダーは、棄権又は補欠のエントリーがある場合はレフェリーに通知するものとし、競技会の最終エントリーが確定される。レフェリーは、その後、ドローのための競技者のグルーピングやスタートリストの組み合わせを提示してもよい。
- ISU競技会では、最初のドローは、大会初日の前日に開催されるものとする。
- 以降の競技日について、チームリーダーは、組織委員会が発表した手順、締め切りに従い、さらなる棄権、補欠のエントリー、チーム競技の競技者をレフェリーに通知する義務を持つ。

##### 2.2.

- 各競技者には、抽選、リザルトのリストに使用するため、参照ナンバー(スターティング・ナンバー)が割り当てられる。
- レフェリーは、組の抽選を行う。出席者が参加し手動の手順によって実施、又は該当するスターティング・ナンバーの中で無作為抽選を行うようにプログラムされているコンピューターによって(コンピュータードロー)実施してもよい。
- 以降の競技日において、スタートリストの構成や組の抽選は、組織委員会が任命したスポーツエキスパートの立会いのもと(規則第210条1k)、また(ISU競技会の際は)ISU技術委員会の代表の監督のもとレフェリーによって実施される。

2.3. どちらの競技者がインレーンとなるか、アウトレーンとなるかは、次の方法で決定される：

- 組の構成が抽選によって決定される時は、その組で最初に抽選された競技者がインレーン(チーム競技の場合はフィニッシングストレート)でスタートするものとする。
- 組の構成が先に行われた距離又は競技において得られたランクに基づいている時は、上位にランクされた競技者を最初に組に配置し、インレーンでスタートするものとする。

ただし、競技会の規則が、同一国の二人の競技者は、同組で滑走しないと定めている場合は、規則241条3b)が適用される。同一距離を2度滑走してリザルトを決定する競技における2レース目に関しては、規則第242条2項を参照。

c) 抽選が行われた後で競技者がスタートを棄権し、この棄権のために幾つかの組が再編成される場合、規則第245条3項と4項を適用する。

### 第240条

#### 【世界オールラウンド選手権大会、ヨーロッパ選手権大会及び世界距離別選手権大会の抽選】

#### 1. 【世界オールラウンド選手権大会の最初の抽選】

世界オールラウンド選手権大会における最初の2距離を抽選する際、競技者は当該距離について認定された自身の最高出場資格タイムに基づいて、3つのグループに配分されるものとする。

グループⅠ：出場資格タイムの上位8位にいる競技者

グループⅡ：出場資格タイムの9-16位にランクされた競技者

グループⅢ：残りの競技者

グルーピングは、第1距離の抽選については500mの出場資格タイムに、第2距離についてはそれぞれ3000m、5000mの出場資格タイムに基づく。スピードスケート技術委員会は、出場資格タイムの認定とグルーピングを決定するタイムランキングリストの認定に責任がある。タイムランキングリストで8位又は16位にタイがある場合、競技者がどのグループに属するかは抽選によって決定されるものとする。

同一グループに属する競技者は、規則第239条2、3項に従い、スターティング・ナンバーで抽選し組み合わせが決定される。グループⅢから最初に抽選された2名の競技者は、当該距離の第1組となる。ただし、申し込まれた競技者の数が奇数の場合、グループⅢから最初に抽選された競技者は、第1組で独走とする。グループⅢの抽選後、グループⅡの順で続けることとする。

#### 2. 【世界オールラウンド選手権大会のその後の抽選】

- 第3距離においては、組の編成は2距離後の合計得点のランキングに基づく。複数競技者の合計得点が同点の場合、最初の距離のタイムが良い方の競技者が上位にランクされる。
- 組のスタート順は、競技者のランキング順とは逆になる：2距離後に1位、2位にランクされた競技者は最終組、3位、4位にランクされた競技者は最終の前の組という順で滑走する。

### 3. 【世界オールラウンド選手権大会の第4距離への出場資格】

a) 第4距離においては、8名の競技者のみがスタートするものとする。出場資格を得る競技者の選考は、3距離後の上位16位にランクされたスケーターで行われ、2つの異なるランキングリストに基づく：3つの滑走距離の最長距離（女子3000m、男子5000m）の最終順位及び3距離後の合計得点の最終順位。

これらのランキングリストの両方で上位8位にいる競技者は、直接第4距離への出場資格が与えられる。これらのランキングリストの一方でのみ上位8位に位置するスケーターの中から、次に出場資格を得るのは2つのリストのいずれかで最もよいポジションをもつ競技者である。

2名のスケーターが2つのランキングリストで同一ポジションを有する場合は、3距離後の合計得点における最終順位にいる競技者が、2名のうちで最初に出場資格を得る。2名の競技者がランキングリストの一方で同一ポジションを分け合う場合、他のランキングリストでより上位の競技者が最初に出場資格を得る。

b) 最終距離の組の編成に関して、各グループで競技者数が同じになるように、競技者は2つのグループに配分される。3距離後に最良のランクを有する競技者はグループ1に配分され、残りの競技者はグループ2に配分される。何人もの競技者が合計得点でタイの場合、滑走した3距離の最長距離においてより良いタイムをもつ競技者がより上位にランクされると考えられる。

各グループ内で、競技者はすでに滑走した3距離の最長距離におけるランクにしたがって組み合わせられる。その結果、この距離で最良のランクを有する競技者はこの距離で2番目に良いランクを有する競技者と組み合わせられ、インレーンでスタートすることになる、等々。

c) 組のスタート順は、下記の方法により、各グループ内で、3距離後の合計得点のランキングに基づくものとする：

- 最上位にランクされる競技者は最終組でスタートするものとする。
- 2位にランクされる競技者が最上位にランクされる競技者と組み合わせられていない場合、この競技者は最終組から2番目の組でスタートするものとする、等。
- グループ2の組はすべてグループ1の組の前にスタートするものとする。

d) 第4距離で競技する権利を有する1名または複数のスケーターが抽選後に棄権するような場合、上記a)項に記された基準に従い、次に出場資格を有するスケーターに置き換えることができる。必要な場合、次に出場資格を有するスケーターを決定するため、個別のランキングリストの上位8名に続く順位を考慮してもよい。

### 4. 【ヨーロッパ選手権大会と地域予選競技会】

ヨーロッパ選手権大会における抽選は、世界選手権大会の該当規則に従い同一の競技フォーマット(規則第240条1~4項、規則第240条5項又は規則第242条)で実施するものとする。

### 5. 【世界距離別選手権大会】

a) 組の抽選において、競技者は規則第208条2項に定義されたように、当該競技の特別資格取得ランキングリスト(SQRL)の個人ランキングに基づき、グループ分けされる。その後、SQRL競技会の結果を持たない競技者は、認定されたそれぞれのベスト資格取得タイムに従ってランキングされる。

b) 参加者の完全なランキングリストが確定した後、競技者はそれぞれ6名のグループに配分される。ただし、最終グループ(最下位ランクのスケーター)は、6名未満のこともある。上位6位にランクされた競技者のグループから、最後の3組を抽選するものとする。参加者数が奇数の場合、第1組は独走とする。

c) チームレースに関して、レース(ヒート)の順序と構成は、開催された資格取得競技会からの参加チーム(ISUメンバー)のSQRLランキングに基づく(規則第208条2項参照)。上位4位にランクしたISUメンバーのチームは最終2ヒートの編成のため抽選され、残りのチームは最初の2ヒートを編成するため抽選されるものとする。

d) マスタート競技は、以下の規定に従い、ISU技術規定第253条4項b)に基づき開催される：

i) 競技者は、SQRLの個人ランキングに基づいてシードされる。競技者は、シードの序列が上の競技者を第1列目とし、各列6名でスタートラインに整列する。

### 第241条 【オリンピック冬季競技大会の抽選】

1. オリンピック冬季競技大会におけるスタート順の抽選は、距離ごとに実施するものとする(規則第223条参照)。

2. a) 各抽選に関して、当該競技について規程第209条に定義されたように、特別なオリンピック出場資格取得順位(SOQC)の自身の個人ランキングに基づいて、競技者はグループに配分されるものとする。SOQCからの結果がない競技者は、自身の認定された最高出場資格タイムにしたがって、その後にはランクされる。

b) 個人ランキングに基づき、エントリーした競技者は4つのグループに配分される：

- グループI：上位6位にランクされた競技者
- グループII：7-12位にランクされた競技者
- グループIII：13-18位にランクされた競技者
- グループIV：19-24
- グループV：残る競技者

ただし、女子5000mと男子10000mに関して、各グループは競技者4名になる：上位4位にランクされた競技者がグループIに、次の4名がグループIIに属する。

c) SOQCランキングリストにタイがある場合、グルーピングに必要であれば、当該競技者間の内部ランキングは、抽選によって決定される。

3. a) 同一グループに属する競技者は、スターティング・ナンバーを抽選することにより、一緒に組み合わせられるものとする。組のスタート順は以下ようになる：グループVから最初に抽選された2名の競技者は、当該距離では第1組になる。ただし、申し込まれたスケーター数が奇数の場合は、グループVから最初に抽選された競技者が第1組で独走するものとする。グループVが抽選された後、グループIVが続く。

b) 同一のISUメンバー/NOC(国)を代表する競技者2名は、オープンドローが行われる場合に、グループにおける競技者の過半数がこのISUメンバー/NOCを代表しな

い限り、同一組でスタートしないものとする。よって、次のようなシナリオに対応する必要がある：

- i) 組の第2のスケーターが抽選される瞬間に、一か国からの残りの競技者の数が（グループの）残っている組数より多い。その後抽選は次のように続けるものとする：
  - ・次に抽選されるスケーターが当該国からでない場合、抽選された競技者はスタートリストで次に利用できる位置に移動される（例えば、次の組のインレーンに）。
  - ・この手順は、同じ状況が後の組で他の国に起きないことを注目しながら、当該国からの競技者が抽選されるまで繰り返される。起こる場合は、その後スタートリストで次に利用できる位置に移動されなければならない。
- ii) 組の2番目に抽選された（又は移動した）競技者は同じ国から最初に抽選された競技者である。その後上記 i) に記述されたような潜在的な状況を注目しながら、競技者はスタートリストで次に利用できる位置に移動される。

4. チームパシュート競技は、選考段階（準々決勝、準決勝、決勝及び他の順位決定レース）を経て開催され、決勝レースがオリンピック競技会の金、銀メダルを決定する。各段階において、次の段階に進む前に女子男子の前段階のレースを完了するものとする。

- a) 準々決勝(QF)は、タイムトライアル方式で滑走され、競技するチームのタイムランキングは、チームが記録したフィニッシュタイムによって決定される。ヒートで、あるチームが他のチームに追い抜かれた場合も、このタイムランキングで結果を得るためには、両チームともレースを完走しなければならない。同タイムの場合（複数のチームが同記録）、SOQCランクが上のチームが上位となる。準決勝(SF)、決勝、他の順位決定レースは、規則第261条1e)項に従い、敗退方式で実施される。
- b) 準々決勝のヒートの構成は、エントリーしたチームの間のオープンドロウで決定される。
- c) 準々決勝の記録上位4組が準決勝へ進む；5位、6位のタイムのチームがC決勝、残る2チームがD決勝に進む。準々決勝で最速のチームが、QF(1)、2番目のチームをQF(2)という順で決めていく。準決勝は次のように実施される：
  - 準決勝第1レース、SF1： QF(1) 対 QF(4)
  - 準決勝第2レース、SF2： QF(2) 対 QF(3)
- d) 準決勝終了後、準々決勝で次の出場資格を得られなかった4チームが、最終順位5-8位を決めるため順位決定レースで滑走する。最初に、準々決勝で最も遅い記録の2チームが、最終順位7位と8位を決定するD決勝を滑走する。その後、最終順位5位と6位を決定するためのC決勝が、準々決勝の記録がより速い敗者2チーム間で実施される。
- e) 各準決勝の勝者は金と銀メダルを競うA決勝へ進出する。準決勝の敗者は銅メダルを競うB決勝で競技する（敗者は4位となる）。B決勝が最初に実施される。
- f) 準々決勝は、それぞれのチームパシュートの競技初日に実施される；準決勝と全ての決勝は（順位決定レースを含め）、翌日に実施される。

5. マススタートは、敗退方式（準決勝）で実施され、そこで競技者は、決勝と順位決定戦の出場資格を得る。

- a) 準決勝2レース(SF1とSF2)の構成は、以下のようになり、エントリーした競技者のS

OQCランクに基づく：

- ・最上位ランクの競技者は、SF1、2位、3位の競技者がSF2、4位、5位の競技者がSF1のように続く。
  - ・ただし、各準決勝レースには、同一ISUメンバー(NOC)からは最大1名の競技者とする。同一国の2番目のランクの競技者は、この国の最上位の競技者とは異なる準決勝に入れなければならない。
  - ・競技者がSOQCランクを保有していない場合は、競技に参加しない同一国のスケーターの中でSOQCランクが最上位の者と同じSOQCランクとみなす。
- b) 各準決勝からの最上位8名が、マススタート決勝の出場資格を得る。決勝では、競技者には以下のようなヘルメットカバー番号を与えられる：SF1の勝者が1、SF2の勝者が2、SF1の第2位が3、SF2の第2位が4...

#### 第242条 【ヨーロッパ選手権及び四大陸選手権大会の抽選】

ヨーロッパ選手権、四大陸選手権大会の抽選は、世界選手権の同一競技に該当する規則に従って実施される（規則第240条1-4項、第240条5項を参照）。

#### 第243条 【世界ジュニア選手権大会の抽選】

1. 組の抽選に関して、競技者は、自身の認定された最高資格取得タイムにしたがってそれぞれ競技者8名ずつのグループに分けられる。最高位にランクされた競技者のいるグループの組が最後に滑走する。同じISUメンバーを代表する競技者は、同一組で競技しないものとする（規則第241条3項を参照）。
2. カルテットスタートは女子3000mと男子5000mで用いられるものとする。
3. チームレースに関して、チームは、距離別1500m（チームパシュート用）、距離別1000m（チームスプリント用）において当該ISUメンバーの第2位の競技者のランクに基づいて、シードされるものとする。最上位にシードされた2チームが最後に滑走する。
4. マススタート競技はISU技術規定第253条4b)に基づき実施される。最終順位は、規則第265条6項に従い決定される：
  - a) この競技の最大競技者数は30名とする。30名以上のエントリーがある場合は、1500mにおける各ISUメンバーのスケーターのランクに基づいて、エントリー枠がISUメンバーに割り当てられる（それぞれに対し最大2名の競技者）。まず1500mに競技者をエントリーする全てのISUメンバーに1名の枠が割り当てられる。二人目の枠は、各ISUメンバーの2番目に早いスケーターの1500mでのランクに従って割り当てられる。
  - b) 競技者は、ランダムドロウに基づき、スタートラインに1列6名で整列する。

## 第244条 【国際競技会の抽選】

- 国際競技会において、組織委員会はスタート順の抽選に使用される番号を各競技者に与える。
- スタートリストの構成は、エントリーされたスケーターのレベルに基づき、組織委員会の裁量で決定する。
  - 組分けは、スケーターのランキングに基づいて決定する（例：認定されたベスト出場資格タイム、パーソナルベストタイム、その他のシーディングランキング）。ランク最下位の競技者が、1組で滑走する。
  - 抽選のため、競技者を4名か6名か8名のグループに分ける。規則第240条1項、第241条2.b)項、第243条1項を参照。
  - 抽選のため、競技者を2または3のグループに分ける。
  - または、上記いずれかの組合せ。このように編成されたグループの競技者数が奇数となった場合、スターティング・ナンバーが最後に抽選された競技者は、次のグループから最初に抽選された競技者と滑走するものとする。競技者数が奇数のため、競技者が残された場合、最下位にランクされた競技者のいるグループで独走する。

### 【1つの賞を授与する競技会の組の抽選と編成】

- 競技会が2距離に1つの賞を授与する場合、組の編成は両距離について抽選によって決定されるものとする。
- 競技会が3距離に1つの賞を授与する場合、組の編成は滑走すべき第1距離についてのみ抽選によって決定されるものとする。

第2距離に関して、競技者は第1距離で得られたランクにしたがって組み合わせられる。第3距離に関して、競技者は2距離後の合計得点における自身のランクにしたがって組み合わせられる。

第2距離と第3距離に関して、組のスタート順は競技者のランキング順とは逆になるものとする（規則第240条3項と4項参照）。
- 競技会が4距離に1つの賞を授与する場合、組の編成は最初の2距離について別々に抽選によって決定される。

第3距離と第4距離に関して、組の編成は規則第240条3項と4項により決定される。例外的に、8名以上の競技者が第4距離でスタートすることもある。
- 500m2回、1000m2回のスプリント競技会では、規則第240条4項が適用される。

## 第245条 【抽選後の棄権、補欠のエントリー】

- 補欠無しでのスタート順の組み直し
  - 抽選後、競技者が棄権した場合、その競技者の前の組の全ての同じレーンのスケーターは、空いた枠へ順次繰り上がり、初めに抽選で決められたレーンを維持して組を結成する。
  - この組み直しの結果、2名以上の競技者が、独走となった場合は、これらのスケーター

で組を結成する。前の組の競技者が、後の組の空いた枠に入ることになる。

- 補欠ありでのスタート順の組み直し
  - 競技者が、抽選が行われた後に病気のためある距離に出場できない場合、その競技者を補欠に置き換えることができる。競技会に一定の出場資格基準が設定されている場合、病気の競技者を置き換えることができるのは、これらの基準を満たしている補欠のみである。ただし、競技会が数距離に1つの賞を授与する場合、補欠は第1距離のスタートの前にもみエントリーすることができる。
  - 1項に記載のような組み直しが適用された後、棄権したスケーターの補欠は、空いた枠に入れられる。
- 他の組に移動させられる競技者は、当該距離の予定スタート時間の少なくとも30分前までに告知されなければならない。
- 単一の賞を授与する複数距離の競技の競技者が、距離の抽選後、その距離を棄権する場合、当該競技者は、この距離及び他のいかなる距離にも再びエントリーすることは許可されない。

## 第246条 【スタート順の調整】

単一の賞を授与する複数距離の競技において、競技者は、レースとレースの間に少なくとも30分の休憩時間をもつ権利を有する。必要ならば、レフェリーは必要とされる休憩時間が確保できるように、組のスタート順を調整してもよい。

## D. 計 時

### 第247条 【自動計時と手動計時】

- 計時には2つの方法、（規則第251条に記載される）自動計時と（規則第250条に記載される）手動計時が存在する。
- 手動計時手順（規則第250条参照）が適当な位置に置かれなければならない。ただし、2系統を超える独立した自動計時システムが使用されている場合、手動計時手順は要求されない。
  - 自動計時システムが使用されている場合、手動計時手順の目的は自動計時システムが部分的に又は全体に失敗した場合にバックアップとして確定されることである。（規則第251条5項参照。）
- オリンピック冬季競技大会、ISU選手権大会、ワールドカップ競技会、地域予選競技会及び他のISUイベントについては、自動計時手順（規則第251条参照）が適切に配置されなければならない、規則第251条2項d)も参照。

## 第248条 【時 計】

1. 自動計時システムについては、システムの信頼性と精度を記述している証明書(毎年発行された)が競技会前にレフェリーに提出されるものとする。そのような証明書は最大3ヶ月間有効である。
2. 手動計時については、デジタル電子時計のみが使用されるものとする。レフェリーの要求により、これらの時計が良好な作動状態であることを記載する時計製作者の証明書が作成されるものとする。
3. 使用される全ての時計は少なくとも1/100秒の精度をもつタイムを計測し、表示する機能をもたなければならない。

## 第249条 【公式タイム】

レフェリーが計時プロトコルに署名した時をもってタイムは公式と考えられる。公式タイムは論議されない。

## 第250条 【手動計時手順】

1. チーフタイムキーパー、タイムキーパー3名及び補助タイムキーパー1名が任命されなければならない。  
チーフタイムキーパーは、タイム記録員1名により補助されるための選択権を有する。
2. タイムキーパーはフィニッシュラインに位置し、スターターによる発砲からの煙火又は閃光が目に見える瞬間にその時計をスタートさせるものとする。霧、降雪、暗い時等の場合にのみ、タイムキーパーはスタートラインに位置し、発砲の瞬間にその時計をスタートさせるものとする。各タイムキーパーは、1つの時計のみを使用するものとする。
3. タイムキーパーはその組の両スケーターのタイムを個々に独立して計時するものとする。
4. 各レースの終了時に、チーフタイムキーパーは、時計を一貫した順序(例えば、第1位の競技者の第1、第2、第3時計、次に2位の競技者など)で読み、そのタイムが正しく記録されることを観察するものとする。1名又はそれ以上のタイムキーパーが何らかの理由によりタイムを計時していなかった場合にのみ、補助タイムキーパーによって計時されたタイムが記録されるものとする。
5. 各タイムキーパーのタイムは、1/100秒の精度で記録されるものとする。使用される時計が1/1000秒のタイムを表示する場合、1/100秒を超える精度を表示するいかなる数字も無視されるものとする。
6. チーフタイムキーパーの監督の下に、各スケーターの公式タイムが決定され、以下のとおり計時プロトコルに記録される。

- a) 2個の時計が同一タイムを示し、3個目が異なるタイムを示す時は、一致しているタイムが採用されるものとする。
- b) すべての時計が異なるタイムを示す時は、中間の時計のタイムがリザルトとして採用されるものとする。
- c) タイムキーパー2名が何らかの理由によりタイムを計時していなかった場合、他の2個の時計の平均タイムがリザルトとして採用されるものとする。平均タイムが1/100秒の倍数でない場合、低い方の数字の1/100秒が採用される。
- d) 組の競技者間の差が5m未満の時、フィニッシュラインジャッジは、フィニッシュラインを勝者が通過した瞬間の2名の競技者間の距離を、手動計時のチーフタイムキーパーに報告するものとする。組の第2位の競技者のタイムは、フィニッシュラインジャッジの同意のもと、チームタイムキーパーによって決定される(規則第220条参照)。

7. (手動計時手順に従って) 競技者の公式タイムを決定する際、上記6項に従って記録された手動タイムに20/100秒が加算されるものとする。
8. 手動計時手順が競技会のリザルト又は競技者のリザルトの源である場合、公式プロトコルとリザルトの印刷リストはそのリザルトが手動計時手順に基づいていることを明確に表示するものとする、規則第273条1項d)参照。

## 第251条 【自動計時手順】

1. 自動計時という用語は、スタートガンの発砲によって自動的に稼働し、各競技者によるフィニッシュラインへの到達を自動的に記録する計時計測システムを示す。
2.
  - a) 異なる技術/技術的解決法を自動計時の実現のため用いることができる:
    - 競技者のフィニッシュを記録するための光学センサーまたはレーザー光学検出器に基づいた電子システム(1セット又は2セットの検出器を、できるだけ氷に接近するように、レーンの間に設置する) (“光学システム”)
    - 競技者のフィニッシュを記録するためにスケーターが着用した送信機からの信号を用いるトランスポンダーに基づくシステム (“トランスポンダーシステム”)
    - タイムスケールを含んでいる歪みのないイメージがフィニッシュ直後に再生できるという方法で、競技者のフィニッシュの写真映像を用いるシステム (“フォト-フィニッシュシステム”)これらのシステムのそれぞれのカテゴリーに関して、フィニッシュの定義(規程第260条1項)はシステムの操作上の特性に調整される必要がある。このためのガイドラインはISUにより発行される。
  - b) 幾つかの自動計時システムが利用できる場合、下記小項c)に関して、レフェリーはどのシステムが第1システムであり、どのシステムがバックアップ解決の役を果たすか、競技の開始前に宣言しなければならない。幾つかのバックアップシステムが利用できる場合、それらの選択の順は競技会の開始に先立って宣言されなければならない。チーフタイムキーパーは第1システムの不調のいかなる表示をも見せるために、第1システムとバックアップシス

テム(s)両方を絶え間なく監視しなければならない。第1システムが偶発的に失敗する場合、出来事に巻き込まれた競技者(s)の結果はバックアップシステムにより決定される。

数周にわたるレースにおいて、タイムは周ごとに計時され、記録されなければならない。また、積算のラップタイム(スプリットタイム)は1/100秒の精度で記録されるものとし、各週のラップタイムは同一レベルの精度で積算され、プロトコルに記録されるものとする。

- c) フォトフィニッシュシステムが使用されている場合、公式プロトコルはフォトフィニッシュシステムにより記録されたフィニッシュのタイムと順位により形成される。“光学システム”又はトランスポンダーシステムからのタイムはスコアボードに“ライブ”表示してもよいが、用いられたシステムのタイムが異なる場合、フォトフィニッシュシステムによる競技者又はチームのフィニッシュのタイムと順位が、最終結果を決定する。ISUは、この件に関し更なる技術的、手順的なガイドラインを発行することができる。
- d) フォトフィニッシュ装置の使用は、ISU選手権大会、ISUワールドカップ競技会及びオリンピック冬季競技大会スピードスケートに必須である。

3. すべての距離について、タイムは1/100秒の精度で計測され、プロトコルに記録されるものとする。使用される時計が1/100秒を超える精度を表示する場合、公式タイムを決定する際にこれらの数字は無視されるものとする。ただし、1/1000秒の解決をもつフォトフィニッシュシステムが使用されている場合、規則第265条1項に従って少数第3位がタイを解消するために記録されるものとする。

#### 4. チーフタイムキーパー及びアシスタント・チーフタイムキーパー

- a) 自動計時手順のためのチーフタイムキーパー、及び使用されている各自動計時システム(例えば、“光学システム”、フォトフィニッシュ及びトランスポンダー)のためのアシスタント・チーフタイムキーパー1名が任命されなければならない。
- b) チーフタイムキーパーは、各レース後、いかなる不一致又は装置の不調を確認する目的で、使用されているシステムによる各競技者の記録されたタイム(s)を照合するものとする。アシスタント・チーフタイムキーパー(s)は、距離が終了した後に、直ちにシステムによって記録されたタイムの完全な一式を管理し、いかなる計器示度又はシステムの偶発的な不調の証拠をチーフタイムキーパーに通知するものとする。

チーフタイムキーパーには、承認のためにレフェリーに提出されるべき公式リザルトの根拠を作成する計時プロトコルを準備する責任がある。計時プロトコルはリザルトが第1システムからのタイムに基づいていない全ての場合を確認し、これらの場合にリザルトを確立するために使用されたバックアップシステムを指定するものとする。

5. 第1システムが偶発的に失敗した場合、及び他の自動計時システムがバックアップとして利用できない場合、規則第250条6項と7項に従って、手動計時手順からのリザルトが公式タイムを決定するために用いられることになる。ただし、公式タイムが決定される際、手動で計時されたタイムの精度をチェックするか又は証明することを可能とする他の利用できる証拠、例えばビデオ記録など、が考慮されるものとする。特に、これは規則第260条2項と3項によって補充された状況に適用する。

#### 第252条 【スプリットタイムと各週のラップタイム】

## E. 競技規則

### 第253条

#### 1. 【逆時計回りの滑走】

レースは、逆時計回りに滑走して実施される。即ち、トラックの内側は競技者の左側になる。

#### 2. 【別れたレースレーンにおける滑走】

チーム競技（規則第 261 条参照）及び下記 4 項にしたがって組織された競技又はレースの例外として、スケーターは組んでレースし、抽選により決定された競技レーンでスタートし、下記 3 項に記述されたように各周回中レーンを交換する。距離（レース）の結果は全ての競技しているスケーターによって達成されたタイムを比較することにより決定される。

#### 3. 【レーンの交換】

a) インレーンを滑走する競技者は、（可動性のブロックで表示された）カーブの出口と（コーンで表示された）次のカーブの始まりとの間のストレートとして定義された、交差ストレートでアウトレーンに代わるものとする。又アウトレーンを滑走する競技者についてはその逆にするものとする（例外については下記 b) 項参照）。

この規則の違反は、失格に至るものとする。

b) 400m標準トラックで競技している時の 1000mと 1500mの最初の直線では、レーンの交換はない。他のサイズのトラックによるこれらの距離又は他の距離に関しても、同様の例外が適用されてもよい。

#### 4. 【特別規則をもつ競技と距離】

a) 100m以下の距離のスプリント競技では、各競技者用にセパレートレーンを設け、各ヒートに競技者 3 名がいてもよい。これらの競技は敗退方式で実施され、競技者はヒートの順位及び/又は到達したタイムに基づいて次の段階に進出する。

b) 競技は、マススタートレースとして実施することができる。

i) 競技トラックは、分かれた競技レーンなしで用意する。トラックには、ウォームアップレーンを含めることができ、I S U 競技会では常に含める。トラックの境界としてブロックを使用してもよい。マススタートレースの距離は、周回数で指定され、スケーターが最初にフィニッシュラインを通過した時からカウントダウンが開始される。

ii) スタートはフィニッシュ側ストレートの中央（標準トラックの 1000mフィニッシュライン）で行われる。競技者は、各列スケーター最大 6 名、列間は最低 1 m でスタートの整列をする。スケーターのスタート位置は抽選により又は競技者のシードにより決定される。全ての競技者がスタートラインの後ろに整列した時、スターターは「レディ」と通告し、スタートピストルを撃つ。ピストルを撃つ前に、前に進んだり、スタート列から動いたりしたスケーターは失格となる。

iii) 1 周目は、集団の中でより良い位置を得るために加速することは許されない。この規則に違反すると失格となる。1 周目の周回中に多数のスケーターを巻き込む衝突が起きた場合、レースはスターターのホイッスル又はピストルによって中止され、速やかに再レースが行われる。1 周目が完了すると、明確な音による合図（例えばスタートピストルの発砲）が行われる。この瞬間から競技者は、より良い位置を獲得するため加速することが許可される。

iv) レースのフィニッシュはフィニッシュ側ストレートの最後 (500m の場合) で、レースの方式に中間スプリントが含まれる場合、このラインが中間スプリントのフィニッシュラインとなる。

v) 規則第 219 条に規定されているように周回数を示す。1 周目 (加速しない) は、滑走すべき距離の一部とみなす。レースの方式に中間スプリントが含まれる場合、各中間スプリントのフィニッシュの 1 周前にベルで合図を与えるものとする。

vi) 競技会で通知された規則に従い、先頭のスケーター又は特定数の競技者に (完全に 1 周) 追い越された競技者は、レーストラックのアウト側に移動し、直ちにレースを棄権しなければならない。

vii) 他の競技者に対するスポーツマンらしからぬ行為は、失格の対象となりうる。レフリーは、かかる競技者を失格にする権威を持つ。妨害された競技者は、レフリーの裁量のもと、次のラウンドにアドバンスされうる。

viii) 組織者は、レースのため十分な安全措置を講じなければならない。I S U 競技会では、特定の安全要件が発行される。

ix) スケーターは、競技会の指定に従い、特別な安全装備 (規則第 223 条、279 条を参照)、ヘルメットカバー、アームバンド、ビブ、計時用の装置を着用しなければならない。これらの要件を遵守しない競技者は、失格となるか又はレースでのスタートを拒否される。

x) レースの方式に中間スプリントが含まれる場合、中間スプリント及び最終スプリントに対してポイントが与えられる。競技者がレースを完走しなかった場合、中間スプリントで獲得したポイントは、当該スケーターの最終ランクを決定する際、評価の対象としない。完走しなかった競技者が獲得した中間スプリントポイントは、他の競技者に移行されることはない。レース規則の違反があり、スプリントの結果に影響を及ぼした場合、違反した競技者は失格となり、スプリントポイント付与の対象とならない。また、失格した競技者は、最終スプリントのポイント付与の対象とならない。競技者がこのようにして獲得したスプリントポイントの合計が、レースの結果を決定するが、スプリントポイントの合計が同点の場合は、最終スプリントの着順により決定する。その後、スプリントポイントを獲得しなかった競技者は、最終スプリントの着順に従いランキングされる。完走しなかった競技者は、レースを棄権する前に完了した周回数によってランキングされることになる。複数の競技者がレースを同一周回数後に棄権した場合は、最後の中間タイムによってランキングされる。

xi) マススタートレースは、レースのある段階で最下位となった 1 名以上の競技者を、その段階でレースから除外すると規定した競技会規則に従い実施することができる。

xii) マススタートレースは、パシュートレースの形式で、つまり一部の競技者に、例えば競技会の先のレースの結果に基づいて事前に定義された「ハンディキャップ」を持たせるス

タガードスタートの形式で実施してもよい。

x iii) マススタートレースの最中は、コーチはコーチエリア又は中地に入るとは許可されない。

x iv) 以下の規則は、マススタートレースには適用されない：規則第 253 条 2 項、3 項、規則第 255 条 2 項、3 項、第 256 条、第 257 条、第 258 条、第 259 条、第 262 条。

c) 1 日での競技の場合は、当該 I S U コミュニケーションの特別規則を参照。

## 第 254 条 【スタートの呼び出し】

1. 各スタートに先立って、競技する予定の者の氏名が、スタート地点及び更衣室で、明確に呼び挙げられるものとする。
2. スタート地点に速やかに現れることができないのは、その距離からの棄権に等しい。

## 第 255 条

### 1. 【スタート装置】

- 1.1. 従来の回転式スタート銃（雷管銃）の代わりに、電子式スタートピストルを用いてもよい。この場合に下記条件が遵守されるものとする：
  - a) 電子式ピストルははっきりとした引き金点をもつものとする。
  - b) 「銃の発砲」での合成音は音が大きく、明確で、従来の回転式スタート銃からの銃声と同様であるものとする。
  - c) 煙火は閃光に置き換えられ、それはフォトフラッシュとは明らかに異なっていなければならない。
- 1.2 光電管又は高感度のカメラのような電子装置を、不正スタートを検知するために使用してもよい。そのような機器はスタート手順の際、スターターを支援するという目的のためだけに使用することができる。これらはスケーターがスターターに呼び戻されることなくスタートラインを離れた場合に不正スタートを立証するために使用してもよい。そのような際の無効スタートを指摘する場の、検知機器による証拠を確認するために任命された競技役員によって決定されてもよい（規則第 255 条 3 項を参照）。
- 1.3 I S U イベント及びオリンピック冬季競技大会では、スターターはスタートライン近くに設置されたスピーカー 2 台に接続されたマイクを使用し号令を発する。

### 2. 【スタート手順】

- 2.1 インレーンとアウトレーンでスタートする競技者は、それぞれ白と赤の腕章により識別されるものとする。競技者 3 名のヒートで調整されている 100m 以下の距離の場合に、中央レーンの競技者は黄色の腕章を着用するものとする。競技者自身が、正しい腕章を着用し正しいスタートレーンにつく責任を持つ。この規則の違反は失格をもたらす。規則第 223 条 3 項、第 279 条 5 項を参照。
- 2.2 a) スターターが「Go to the start」と命じる時、競技者はプレースタートラインとスター

トラインの間の位置につく。これらの 2 つのライン間の距離は 2 m とする。スターターが「Ready」と命じる前に、競技者は安定した姿勢をとらねばならず、そしてスタート姿勢をとり、発砲されるまで完全にこの姿勢を保たなければならない。競技者の身体又は用具のいかなる部分も、スタートラインに触れたり、スタートラインを越え氷に接触したりしてはならない。競技者はそのスケート全体を完全にスタートライン後方に保たなければならない。

b) 競技者がスタート姿勢をとり終わる瞬間と発砲との間には明らかな間隔をおくものとする。この明らかな間隔は 1 秒と 1.5 秒の間とする。

## 【不正スタート】

- 3.1 次の状況では、スターターは不正スタートを指摘するものとする：
  - a) 一方又は両方（すべて）の競技者がスタート姿勢をとることが意図的に遅い場合、違反する競技者(s)は不正スタートを与えられるものとする。
  - b) 一方の競技者がラインから出て、それによってもう一方の競技者がつられて出た場合、当該競技者だけが不正スタートを与えられるものとする。
  - c) 発砲の前、「Ready」の号令の後に競技者がスタート姿勢を離れる場合（規則第 217 条 3 項も参照）。
- 3.2 不正スタートの場合には、競技者はスターターからの 2 発目の発砲及び、又はホイッスルにより呼び戻されるものとする。スターターの命令により、スタートラインから 50~60m の距離で、競技者は停止の合図も受ける。この停止の合図は、競技者の前に赤旗をもったアシスタントスターターによって与えられるか、又は競技者が明確に見ることができる赤色のライトで与えられてもよい。ただし、各ヒートで競技するスケーターが 3 名までの 100m（又は以下の）競技では、スターターは 2 回目の不正スタートの場合にスケーターを呼び戻さなくてもよい。その後失格は当該レースの終了後競技者(s)に告知される。
- 3.3 スターターは 1 回目の不正スタートを引き起こした競技者を警告する。両方の競技者に不正スタートの責任がある場合、彼らはスターターにより共に警告されるものとする。不正スタートが指摘された後でスターターが再スタートのため組/ヒートの競技者を呼び戻した後、この組/ヒートで次の不正スタートを引き起こした競技者は当該距離で失格となる。
- 3.4 発光ライトで、どちらの競技者に不正スタートが与えられるかを示す場合、白色ライトは 1 回目の不正スタートを、赤色ライトは失格を示すために用いられる。スタートレーンの発光台はそれぞれの競技者の腕章の色に相当する色とする。

## 第 256 条

### 1. 【指定された競技レーン内の維持】

競技者は各々に指定された競技レーン内に留まるものとする。指定された競技レーン内を滑走する競技者が、他の競技者により妨害された場合、妨害した競技者は失格となる。

### 2. 【カーブにおける内側ラインの横断】

カーブに入る時、カーブ内で、カーブを出る時、完全に着色されたラインにより表示され、及び雪又は着色ラインの内側に置かれた可動性のブロックによりマークされた、競技レーンの内側ラインを競技者がカットすることは禁じられている。この規則に違反すると競技者は

失格となる。

### 3. 【指定された競技レーンのラインの横断】

競技者が、指定された競技レーンの外を滑走し、そのため他のレーン又はウォームアップレーンのラインをスケート全体で完全に横切った場合、たとえ他の競技者を妨害していなくてもその競技者は失格となることがある。レース中にそのような違反が2回以上目撃されたことが確認された場合、その競技者は、下記4項に記載された状況を例外として、失格となる。

### 4. 【例外的な状況】

以下の状況は上記3項に従い、失格とはならない：

- a) 競技者がカーブで又はフィニッシュ側ストレートに向かってカーブを出る時、内側レーン内に保つことができず、そのため外側レーンにラインを横切ってしまう場合、競技者が直ぐに内側レーンに戻れば競技者は失格にならない。カーブを出る時、内側レーンへの戻りは、いかなる場合も標準400mトラックの1000mフィニッシュを定義しているラインより前で行われなければならない。
- b) 競技者が転倒又は他の突発的理由により指定された競技レーンを離脱する場合、指定されたレーンに直接戻れば競技者は失格にならない。規則第260条3項も参照。
- c) 同一レーンを滑走している他の競技者を追い越す時、追い越しの際に接触を避けるため、距離を短縮することなく、レーンの境界ラインを横切った場合、追い越すスケーターは失格にならない。規則第257条2項を参照。

## 第257条

### 1. 【妨害の場合の責任】

交差ストレートの始まり(スノーライン又は可動性のブロックのラインが途切れている箇所)でカーブを出る時、インレーンからアウトレーンに交差する競技者は、アウトレーンからインレーンに交差する競技者を妨害しないものとする。カルテットにおける他の組の競技者の場合も、これは適用される。インレーンから出る競技者は、他の競技者が妨害的な行為をしない限り、妨害に対する責任を負う。

### 2. 【追越し時の責任】

同一レーンでの追越し：競技者が同一レーンで他の競技者を追い越そうとしている時、(例えば、同一組の2名の競技者間の距離が1周以上になっている時、又はカルテットスタートでカルテットの一方の組の競技者が、同一レーンでスタートしたもう一方の組の競技者に追いついた時)、両競技者は、円滑に追越しを行い、衝突を避ける責任を持つ。

- a) 追越しの状況が迫っている時、前の競技者(追い越される競技者)は、そのレーンで自身のライン(相対的な位置)を保たなければならない。競技者が追越しを容易にするためにレーンの外側部分に移動している場合、その競技者は追い越している競技者が内側を通り過ぎるまでレーンの外側部分に留まらなければならない。
- b) 追い越している競技者は、前の競技者がそのレーンで自身の相対的な位置を維持する限り、

衝突を避ける責任がある。

### 3. 【失格】

レフェリーがこの規則の違反(上記1項と2項参照)を確認した場合、違反した競技者は失格となるものとする。

## 第258条 【追越しによる競技者間の距離】

1. ダブルレーンのトラックにおけるレースで、先行しているスケーターが相手の競技者に追いつき、追い越した時、後ろのスケーターは少なくとも10m後方に留まらなければならない。しかし、一度抜かれたスケーターが、先行しているスケーターを妨害することなく抜き返すことができるかと判断すれば、先行しているスケーターを追い越すことは許される。しかし、先行しているスケーターに対してペースメーカーとして行動してはならない。
2. 追い越されているスケーター又は追い越しているスケーターが不当な行動をとる場合、この競技者は失格となる。

## 第259条 【ペース作り】

他の競技者を誘導又は伴走すること(ペース作り)は許されないし、そのような違反を犯している競技者は失格となる(規則第258条も参照)。ただし、チームパシュートレース(規則第261条参照)に関して、スケーターが彼のチームメイトに(1周)追い抜かれていない限り、同一チームに所属する競技者に対してはこの規則は適用しない。

## 第260条 【フィニッシュライン】

1. 規定の周回数の後、最初に到達しているスケートのブレード前方の先端がフィニッシュラインに触れたか、又は到着した時に、競技者はその距離を完了したものとする。ただし、調整された定義は規則第251条2項a)にしたがって適用されてもよい。
2. フィニッシュラインで故意にスケートを蹴り出すこと(その結果スケートは完全に氷と接しなくなる)又はフィニッシュラインを越えて体を投げ出すことは禁じられ、そして失格に至ることになる。
3. 競技者がフィニッシュの直前で転倒し、そのため最初のスケートが競技レーンの外側に到達する場合、そのタイムはこのスケートのブレード前方の先端がフィニッシュラインの延長線上に到着した瞬間に計測されるものとする。
4. 使用されている自動計時システム(s)が、フィニッシュでスケート以外の手段により止められる場合、その競技者の公式タイムは、(規則第250条7項にしたがって)手動計時手順により決定されたタイムと自動計時システムからのタイムの、遅い方のタイムが記録されるものとする。

## 第261条 【チーム競技のレース規則】

### 1. 【チームパシュートレース】

- a) チーム競技は、各チームで競う3名又は4名のスケーターによるパシュートレースであることが告知される。3名又は4名の両方の場合に、チームのフィニッシュタイム（規則第260条参照）は、チームの第3番目のスケーターのフィニッシュタイムとして決定される。レースをフィニッシュしたスケーターが3名に満たない場合、そのチームはレースを完了しなかったと考えられ、失格とされるものとする。
- b) チームパシュートレースにおいて、2チームはストレートの中央で、トラックの各サイドから同時にスタートするものとする。ヒートがチームのランキングにしたがって構成されている場合、最上位にランクされたチームは通常のフィニッシュ側ストレートでスタートするものとする。他の場合、スタート位置は抽選によって決定される。
- c) トラックは、例えば、標準トラックにおいてインレーンとウォームアップレーンの間の境界線を使用することによって等、一つの競技レーンのみが設計されなければならない。
- d) チームのスケーター(s)が、他のチームのスケーターに追い越される場合は、規則第258条2項を適用する。
- e) チームパシュート競技の形式で、レースの次の段階にチームを進出させる予選を実施する場合、予選で全距離を滑走し終わる前に他のチームを追い越したチームは、その瞬間、この予選の勝者となる。この場合の追い越しの定義は、チームの3番目のスケーターが他チームの3番目のスケーターを追い越していることをいう。
- f) 出場チームの各スケーターは、異なる識別を装着するものとする。チームのスケーターNo.1は、No.1の白いアームバンド、スケーターNo.2は、No.2の赤いアームバンド、スケーターNo.3は、No.3の黄色のアームバンド、スケーターNo.4は、No.4の青いアームバンドを装着する。規則第279条が適用される。  
レフリーの裁量により、アームバンドの代わりにヘルメットカバーまたはヘルメットを使用することができる。

### 2. 【リレーレース】

チーム競技は、各チーム3名又は4名のスケーターによるリレーレースとして告知される。リレーの各区間の距離は変えてもよいが、各区間の推奨される距離は400又は800m（標準トラックで1周又は2周）とする。リレーレースは異なる方式で実施される。推奨される2つの方式（AとB）は、下記b)項とc)項に記述される。

#### a) リレーレースの競技方式A：

2チームは、レース中組んで競技し、セパレートレーンでスタートし、規則第253条3項にしたがってレーンを交換する。各区間は1周又は2周で構成するものとする。レースは1000mフィニッシュラインでスタートし、フィニッシュする。リレーゾーンは1000mフィニッシュラインの前後に20mずつ延長して、40mの長さをもつ。40mリレーゾーンの始まりと終わりはオレンジゾーンで表示されるものとする。中継は区間を完了するスケーターが次の区間をスタートしようとしているスケーターを通過した時行われる。リレーゾ

ンの外でリレーしたチームは失格となる。

#### b) リレーレースの競技方式B：

最大4チームが同一組で競技する。最初の区間の前半（最初のカーブを通して）では、インとアウトレーンが使用され、2名のスケーターまでが各レーン（チームごとにスケーター1名）でスタートする。最初のカーブ出口の後にはインレーンだけが使用される。レースは1500mスタートラインでスタートし、500mと1500mのフィニッシュラインでフィニッシュする。この場合に、最初の区間の距離は700m又は300mとする。次の区間の長さは1周又は2周とする。リレーゾーンは75mの長さを持ち、フィニッシュラインで終わる。リレーゾーンの始まりはオレンジゾーンで表示されるものとする。中継は区間を完了するスケーターが次の区間をスタートしようとしているスケーターにタッチした時行われる。リレーゾーンの外でリレーしたチームは失格となる。追い越しについては規則第257条2項の原則を適用する。

### 3. 【チームスプリントレース】

チーム競技は、各チーム3名のスケーターが滑走するチームスプリントレースとして通知してもよい。滑走距離は特定の周で、各チームのスケーター数と同一とする。インレーンの境界が競技トラックを定義する。追加の境界としてブロックを使用してもよい。

- a) レースは、1チーム独走、又は2チーム同時滑走のいずれでもよい。スタートの設定は、チームパシュートレースと同様で、スタートとフィニッシュは1000mのフィニッシュラインで、2チーム滑走の際は、もう一方のチームに対しては、交差ストレート側の反対の位置とする。
- b) スタート手順は、チームパシュートと同じとする。失格については、ISU規則第261条3項を参照。また再スタートの許可については、ISU規則第262条2項を参照。
- c) 競技チームの各スケーターは、レースでの役割を示す異なる識別を装着するものとする：  
チームのスケーターNo.1は、No.1の白いアームバンド、スケーターNo.2は、No.2の赤いアームバンド、スケーターNo.3は、No.3の黄色のアームバンド、スケーターNo.4は、No.4の青いアームバンドを装着する。規則第279条が適用される。  
レフリーの裁量により、アームバンドの代わりにヘルメットカバーまたはヘルメットを使用することができる。
- d) 第1周は、第1走者がチームの先頭となり、その他のスケーターがその後続く。それぞれの周回後、トラックのアウト側に行き、次に指定されたスケーターが次の周でチームを先導しなければならない。最後に指定されたスケーターは、**最終周**を独走し、チームのためにレースを完走する。
- e) チームの次に指定されたスケーターへの引き継ぎは、そのチームのフィニッシュ側ストレートの始まりとカーブの進入地点の間で行わねばならない。引き継ぎエリアの始まりと終わりは、適切に明示する（例：ブロックにより）。

### 4. 【チーム競技での失格と再レース】

パシュート、スプリント、リレーのチームのスケーターが、規則第223条、第255条、第256条、第257条又は第258条、第279条によりレース規則の違反で失格となった場合、そのチームも失格となる。ISU一般規定（有資格規則違反やアンチドーピング規則の違反など）に従

い、チームのメンバーが失格となる場合、チームも失格となる。

規則第 262 条で示された再レースに関する規則は、チームパシュート、チームスプリント、リレーレースにも適用される。よって、そのチームのスケーターの 1 名が規則第 262 条 1-3 項に示されるように妨害された場合、そのチームは再レースが認められるものとする。

### 第 262 条 【再レースの許可】

1. スケーター自身の失敗でないのに妨害された競技者は、レフェリーによって再レースすることが許されるものとする。競技者が通常のレースを終了している場合、2 回のレースの良い方のタイムが競技者の結果として採用されるものとする。
2. トラック上の障害物のためにレースを完了することが不可能な競技者は、再びスタートすることが許されるものとする。障害物として、破損したスケート又は汚れた氷は認められないものとする。また、直接的に停止させられたのではなく、レーストラック付近の者又は出来事により妨害されたという競技者の意見も、再レースの理由として認めることはできない。
3. 障害物が転倒した競技者であったか、又は障害物が交差ストレートにおけるレーンの不正な交差又はいかなる時点でもレーンの離脱のような、規則を違反したその組の他の競技者の違反による場合、レフェリーは再レースさせる権利を拒否することはできない。競技者が再レースを許される場合、レフェリーは当該競技者にそのことを通知しなければならない。

#### 【必要な休憩時間】

4. 競技者が 30 分以内でスタートすることに同意している場合を除いて、競技者は、最初のレースとレフェリーによって決定された再レースとの間に少なくとも 30 分の休憩をもつ権利をもつものとする。

#### 【再レースのスタートレーン】

5. 再レースの場合、通常競技者は最初のレースと同一のレーンでスタートするものとし、合計得点によって又は 2 回のレースの合計タイムによって決定される、スプリント競技における 500m 又は 1000m の 2 回目のレースでは常にそうするものとする。  
2 名以上の競技者が再レースを許された場合、幾つかの組が独走競技者だけになることを避けるために組がつけられるものとする。最初のレースで異なるレーンでスタートした競技者 2 名が新しい組をつくる場合、彼らは新しいレースでは最初のレースと同一のレーンでスタートするものとする。しかし、彼らが共に最初のレースに同一レーンでスタートした場合には、この新しいレースでは組番号の低い組からの競技者がアウトレーンでスタートするものとする（規則第 239 条 4 項と第 245 条参照）。

### 第 263 条 【ドーピング】

(一般規程第 139 条<別冊 I S U 一般規程>参照)

## F. 競技の結果

### 第 264 条 【結果の発表】

競技の結果は、競技終了後直ちに発表されるものとする。

### 第 265 条 【競技会の結果】

#### 1. 【単一距離の競技会の結果】

- a) 単一距離に賞を授与する競技会において、その距離の勝者は最高タイムを樹立した競技者である。規則第 250 条 7 項(手動計時手順)又は第 251 条(自動計時手順)に従い、複数の競技者が同一の(ベスト)タイムを得た場合、双方がその距離の勝者と見なされる。  
手動計時手順の際、同組で滑走した 2 競技者が同タイムで、フィニッシュラインジャッジが一方を勝者とみなした場合、この距離のランキングでは、この競技者がもう一方の競技者の上のランクとなる。また別の組で滑走した競技者が同タイムを記録した場合、勝者は勝者でランクされ、第 2 位は第 2 位でランクされる。  
ただし、1/1000 秒のタイム分析を表示するタイムスケールで、(規則第 251 条 2 項に規定された)フォトフィニッシュシステムが用いられている場合、フォトフィニッシュシステムから 1/1000 秒で記録されたタイムが最終結果の競技者(又はチーム)の順位を決定するために用いられる。この場合、公式プロトコルは当該競技者(又はチーム)のタイムを 1/1000 秒で表示することによりタイブ레이크を示すものとする。
- b) 500m を 2 回滑走する競技については、2 回のレースの合計タイムが最終順位を決定し、同一合計タイムをもつ競技者は同一ランクを得る。ただし、(上記小項 a)に規定された)フォトフィニッシュシステムが用いられている場合、フォトフィニッシュシステムにより 1/1000 秒で記録された合計タイムが最終結果の競技者の順位を決定するために用いられる。この場合、プロトコルは、2 レースの合計タイムを含む全ての結果を 1/1000 秒で表示するものとする。

#### 2. 【数距離の競技会の結果】

2 つ以上の距離に 1 つの賞が授与される競技会において、下記の 3 項と 4 項にしたがって、優勝者はすべての距離を完走し、最小の合計得点を得た競技者である。数名の競技者が同一合計得点となる場合、これらの競技者は同一ランクとなる。

#### 3. 【得点の計算】

得点は次のように計算する：500m レースの秒数はそのまま得点数として計算する。1000m では秒数の 1/2 を、1500m では秒数の 1/3 を、3000m では秒数の 1/6 を、5000m では秒数の 1/10 を、10000m では秒数の 1/20 を得点数として計算する。得点数は小数第 4 位を切り捨てて小数第 3 位まで計算するものとする。

◦フィニッシュラインでのタイム

◦滑走した周回数

◦滑走周回数が同一の場合は、競技者は、最後の中間タイムによってランキングされる。

◦決勝に進む資格を得た競技者が、棄権、または決勝で失格となった場合、決勝で滑走しなかった全ての競技者より上位にランキングされる。

d) 世界ジュニア選手権大会におけるマスタートレースの結果は、中間及び最終スプリントの以下のシステムに基づき、上記 a) に従い決定される：

・レース中、最終スプリントに加え、2回の中間スプリントが行われる。

・各スプリントで、競技者は、レースの最終ランキングにおいて考慮されるポイントを獲得する。中間スプリントは、4周後、7周後のフィニッシュラインで決定される。

・スプリントのポイントは以下のように付与される：

◦中間スプリント：上位3スケーターに対し、3-2-1ポイント

◦最終スプリント：上位6スケーターに対し、30-20-10-4-2-1ポイント

・競技者は、以下のようにランキングされる。

◦獲得したスプリントポイント総得点

◦フィニッシュラインでのタイム

◦滑走した周回数

◦滑走周回数が同一の場合は、競技者は、最後の中間タイムによってランキングされる。

#### 4. 【複数距離の競技会の最終順位】

競技会の最終順位は、すべての距離にわたる得点の総合合計にしたがって決定される。

最終距離で競技者数が制限される場合、残りの競技者間の順位は先立つレースの自身の合計得点によって決定される。

失格等の理由により、競技者が最終距離を完了できなかった場合、最終順位におけるこの競技者のランキングは、競技者が最終距離をスタートしなかったものとして決定される。

#### 5. 【チームパシュート競技の結果】

チームパシュート競技が敗退方式で実施される場合、次の段階へ進出するチームは、敗退したチームより結果は上にランクされる。次の段階に勝ち進んだチームが、次の段階で無効なレース結果(例：DNS、DNF、DQ)となった場合もこれが適用される。この競技の勝者は、最終段階(決勝)でレースに勝ったチームとする。

b) チームパシュート競技が、敗退方式をとらずに実施される場合は、その結果は、チームが記録したタイムによってのみ決定される。

c) オリンピック冬季競技大会のチームパシュート競技の結果は、上記 a) に従い決定される。

B 決勝の勝者が第3位、B 決勝の敗者が第4位、C 決勝の勝者が第5位、C 決勝の敗者が第6位、D 決勝の勝者が第7位、D 決勝の敗者が第8位となる。

d) 世界距離別選手権大会及び世界ジュニア選手権大会のチームパシュート競技の結果は、上記 b) に従い決定される。

#### 6. 【マスタートレースの結果】

a) マスタートレースが、中間スプリントを行って実施される場合、結果は、競技者が獲得したスプリントポイントの合計によって決定される。それ以降のスケーターは、着順に従いランキングされる。獲得ポイントのシステムでは、最終スプリントの上位3名が、レースの結果で上位3位となるようになっている。詳細は、規則第253条4項b)を参照。

b) 中間スプリントのないマスタートレースの結果は、競技者の着順のみで決定される。

c) 冬季オリンピック競技会、世界選手権大会、ヨーロッパ選手権大会、四大陸選手権大会、ISUワールドカップにおけるマスタートレース競技の結果は、中間及び最終スプリントの以下のシステムに基づき、上記 a) に従い決定される：

・レース中、最終スプリントに加え、3回の中間スプリントが行われる。各スプリントにおいて、競技者にはポイントが付与され、それがレースの最終ランキングで考慮される。中間スプリントは、4周、8周、12周後のフィニッシュラインで決定される。

・スプリントのポイントは以下のように付与される：

◦中間スプリント：上位3スケーターに対し、3-2-1ポイント。

◦最終スプリント：上位6スケーターに対し、60-40-20-10-6-3ポイント

・マスタートレースが、準決勝、決勝で実施される場合、決勝に進出しない競技者と決勝に出場する競技者は、以下のようにランキングされる。

◦獲得したスプリントポイント総得点

#### 7. 【チームスプリントレースの結果】

チームスプリントレースの結果は、競技するチームの指定された第3走者が、フィニッシュラインに到達したタイムによって決定される。複数チームが同一のフィニッシュタイムを得た場合は、規則第265条1項が適用される。

#### 第266条 【全距離への参加】

1. 選手権大会又は制限された数の競技者だけが最終距離で競技することが許される他の競技会において、最終距離にスタートする資格を得るためには、競技者は当該競技会においてそれに先立つすべての距離で競技していなければならない(規則第275条3項も参照)。

2. 選手権大会の結果が滑走したすべての距離からの合計得点、又はレースからの合計タイムに基づいているISU選手権大会においては、有効な結果をもってすべての先立つ距離又はレースを完了していない競技者は、選手権大会の最終距離(レース)に出場することは許されない。~~これはオリンピック冬季競技大会の500mにも適用される。~~

#### 第267条 【タイトル】

(一般規程第133条<別冊ISU一般規程>参照)

## 第268条 【優勝者】

1.
  - a) 選手権大会のオールラウンドまたはスプリント複合競技の優勝者は、すべての距離を完走し、その合計得点が最小の競技者である。合計得点がタイの場合、規則第265条2項を適用する。
  - b) 選手権大会の距離別またはチームレースの優勝者は、滑走した単一のレースでベストタイムを達成した競技者またはチームである。
  - c) 選手権大会のマススタートレースにおける優勝者は、レース中に獲得したスプリントポイントの合計が最高の競技者である。
2. 複数の競技者が、いずれかの距離でベストタイムを獲得した場合、これら競技者は全て、当該距離の優勝者とみなされる。
3. ISU選手権大会の勝者は賞とISU金メダルが授与され、第2位の競技者には銀メダル、第3位の競技者には銅メダルが授与されるものとする。
4. 勝者が3名以上いる場合も、1つの距離の勝者はすべて金メダルを受け取るものとする。2名の勝者がいる場合、銀メダルは授与されない。3名の勝者がいる場合、銀メダルと銅メダルは授与されない。2名の勝者がいる場合、次の順位の競技者(s)に銅メダル(s)が授与されるものとする。1名の勝者と第2位に2名以上の競技者のタイがある場合、その後者すべては銀メダルを受領するものとするが、銅メダルは授与されない。1名の勝者と第2位に1名の競技者がいる場合、第3位を占めた競技者すべてに銅メダルが授与されるものとする。

## 第269条 【メダル】

(一般規程第134条<別冊ISU一般規程>参照)

## 第270条 【賞】

(一般規程第120条参照)

## 第271条 【メダルの授与】

(一般規程第134条参照)

## 第272条 【選手権大会の結果】

(一般規程第135条参照)

## 第273条 【公式プロトコル】

1. 公式プロトコルは次の項目を含まなければならない：
  - a) 各距離のスタートリスト；
  - b) 1/100秒で記録された自動計時のタイム(タイの場合は1/1000秒)、又は1/100秒の手動計時。

c) 自動計時使用時は、1/100秒での距離分析(スプリット及びラップタイム)(規則第252条参照)

d) 異常な状況と無効なレース結果を示すため次の略号が使用されるものとする：

DNF：フィニッシュしなかった(レースをスタートしたがフィニッシュしなかった、いかなるレース規則も違反せず、例えば競技者による妨害もなく)

DQ：失格(レース規則の違反又は他の不正行為による失格)

DNS：スタートしなかった(抽選され、最終の組合せに記載されていたが、スタートに現れなかった)

WDR：棄権した(最初の抽選に含まれていたがスタートから棄権した、その結果、組み直しとなった)

RS：(再レースが許可され)再滑走した

MT：規則第250条7項と8項にしたがって手動計時手順により計時されたタイム

2. ISU選手権大会について、公式プロトコルはISUメモランダムの様式にしたがって印刷されなければならない、当該ISUメンバーによりISU専務理事に送付されなければならない。
3. 国際競技会においては、競技会終了後3日以内に、主催者はデジタルプロトコルを記入し、速やかに完成させなければならない。ただし、世界記録については規則第221条3項参照。要請された場合、プロトコルはISUに提出されなければならない。

## G. 抗議と失格

### 第274条 【抗議】

(一般規程第123条<別冊ISU一般規程>参照)

### 第275条 【失格】

1. 競技者による違反は、レフェリーの裁決によって確認された場合、当該距離からの競技者の失格という結果になる。
2. レフェリーの意見でその違反が故意である場合、その競技者は告知されている競技会の以降の競技には参加できないかもしれない。更に、数距離に一つの賞授与される競技会の場合、その競技者はすでに滑走した距離についても失格とされるかもしれない。
3. あるレースで失格となった競技者は、選手権大会又は制限された数の競技者だけが最終距離にスタートすることを許されている他の競技会において、最終距離にスタートする権利を失う(規則第240条も参照)。

### 第276条 【上訴】

(一般規程第124条<別冊ISU一般規程>参照)

### 第277条 【競技者等の除名】

(一般規程第125条参照)

## H. カルテットスタート

### 第278条

#### 1. 【競技フォーマット】

1.1 カルテットスタートとは、スタート時に2組間に約半周の時差をおいて、4名(まで)のスケーターが2組で同時にトラック上を競技する競技形式をいう。

カルテットスタートの2組は、半周時差方式スタートで、同一スタートエリアで、そのレースをスタートする。スタートエリアは、当該距離の通常のスタートエリアに位置する。カルテットの第2組は、2組が通常のスปีドに達した時、2組の間隔が半周になるようなタイミングで、スタートすることが好ましい。カルテットの第2組に不正スタートがあった場合、第2組のスタート後の2組の間隔は1周半になるものとする。

#### 1.2

a) カルテットスタートは、国際競技会、ワールドカップ競技会及びISU選手権大会において用いられてもよい。カルテットスタートに推薦される距離は、1500m以上である。ISU選手権大会において、カルテットスタートは3000m以上の距離にのみ用いられてもよい(規則第201条10項参照)。

b) カルテットスタートが行われるという案内は、遅くとも当該距離の抽選時に通知するものとする。公式プロトコル及び結果のリストには、カルテットスタートの条件の下で記録されたタイムであることを明確に記述する。プロトコルは規則第273条に記載されたすべての項目を含まなければならない。

c) ISU選手権大会において、カルテットスタートは、組織委員会、ISUスポーツディレクター及びスピードスケート技術委員会が合意し、かつアナウンスメントで通知されている時にのみ使用することができる。

#### 2. 【スタート手順とカルテットの構成】

##### 2.1

a) 各カルテット内のスターティングポジションは、次のように決定される：

1 番目に抽選された競技者：1組のインナーレーン(白色のアームバンド)

2 番目に抽選された競技者：1組のアウターレーン(赤色のアームバンド)

3 番目に抽選された競技者：2組のインナーレーン(黄色のアームバンド)

4 番目に抽選された競技者：2組のアウターレーン(青色のアームバンド)

b) 組が競技者のランキングにしたがって編成されている場合、各カルテットの第2組は、上位2名の競技者の組とする。

c) 参加している競技者が(すべてのカルテットで競技者4名の)完全なカルテットを形成できない場合、最初のカルテットだけを不完全とする。(最初のカルテットが独走となることもありうる。)

d) 抽選後、スタートを棄権する場合、レフェリーはカルテットを形成する組を再調整する権

利を有する(第216条と第245条参照)。ただし、カルテットの数が減らされない限り、競技者は最初に指定されたカルテットから他のカルテットに移動させることはできない。

2.2 同一のカルテットにおけるすべての競技者は、集団でスタートの準備をしなければならない。腕章は2.1 a)にしたがって着用されなければならない。

2.3 カルテット内の各組は、自身のラップスコアラーを持ち、各組は別々に計時される。

2.4 カルテットスタートからの世界記録は、ワールドカップ競技会、I S U選手権大会又は他のI S U競技会において樹立されたタイムについてのみ認定される。規則第221条2.i)、2.j)、3項を参照。

競技で使用される計時システムが、適切な計時のため競技者が何らかの装置や機器を装着することを必要とする場合、競技者は、必要な機器を装着してスタートに臨み、レース中それを装着し続ける責任を持つ。

#### 4. 【腕章又はその他の識別】

レース中及びフィニッシュで競技者を識別し、競技トラックでの適正な位置を確認するため、技術規定(規則第253条4項、第255条2項、第278条2項参照)又はレフリーの指示に従い、腕章又はその他の識別手段を装着する義務を持つ。競技者は、正しい腕章又はその他の識別手段を装着してスタートに臨む責任を持つ。

#### 5. 【機器に関する規則の違反】

適正又は必要な機器に関する規則第223条1.a)、2、及び上記1、2、3、4項を遵守しない競技者は失格となる。

## I. 競技者の技術的競技機器

### 第279条

#### 1. 【通信機器】

競技中スケーターが、他の人や情報源と連絡を取ったり情報を得たりする目的のため、技術的な通信機器を装着することは許可されない。

#### 2. 【音楽機器】

競技中、競技レーン又はウォームアップレーン滑走中、スケーターが音楽やその他の音源を再生する機器を装着することは許可されない。

#### 3. 【計時機器】